

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

『婦人文藝』解説・総目次・索引

不二出版

CORNELL UNIVERSITY
LIBRARY
ITHACA, N.Y. 14850



Charles M. H. ...
on ...

II 総目次

凡例

- 一、仮名遣いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に改めた。また、数字・外国人名などは原文のままとし、あえて統一はしなかった。
- 一、標題は原則として原文に従った。(ただし、投稿欄・お知らせの類はこの限りでない。)なお目次標題と異同の著しいものは〈※〉内に注記、あるいは()内に小番号で示し後に注記した。(ただし、写真頁の標題の異同は示さなかった。)
- 一、筆者・編集者による断り書き・追記・脱稿日付、並びに本文署名と異同のある目次署名などはなるべく詳細に記細するよう努め、()内に小番号で示し後に注記した。
- 一、副題・小題などは——(ダッシュ)の後に示した。
- 一、ジャンルなどの補足説明は〈※〉内に示した。
- 一、*は目次に記載のないことを示す。
- 一、本総目次は、『婦人文芸』細目』(発行・篠崎富男、一九八五年五月刊)を改訂して収録したものである。

(篠崎富男)

「婦人文芸」細目

第一卷第一号 創刊号

一九三四（昭九）年六月廿二日発行

創作

過失〈※小説〉

運河のある街〈※小説〉

経緯〈※小説〉

主人〈※小説〉

文芸時評（一）
（二）⁽¹⁾

文学的な問題の中から〈※評論〉

随筆・感想

日記抄

私の妹〈※随筆〉

その後〈※感想〉

詩

泉

紹介

新映画紹介

テオフィル・ゴーチエ
大久保さわ子訳

藤井田鶴子

105 | 107

104

辻村もと子	2 25
小坂たき子	26 48
松田 解子	49 59
矢田津世子	60 85
永井 街子	90 86
福田 晴子	90 86
神近 市子	95 97
野上弥生子	98 99
真杉 静枝	100 101
平林 英子	102 103

研究

万葉集に於ける恋愛歌の種々相〈※第1回〉今井 邦子

編集後記*

次号予告*

〈注〉

(1) 末尾に「一九三四、五、三一」の日付あり。

第一卷第二号 八月号

一九三四（昭九）年七月十五日発行

表紙装幀

紙面解放のお知らせ*

発刊披露の会〈※報告〉

創作

柳剣鳴〈※小説〉

憂鬱なステップ〈※小説〉

車窓〈※小説〉

育くむもの〈※小説〉

詩

波

郭公

翼、頂

お猿

月見草

原 信子

目次裏

森 三千代	6 25
山川 朱実	26 48
西川とも子 ⁽¹⁾	49 56
平林 英子	57 81
館 美保子	82 84
壺田 花子	
露木 陽子	
岡村須磨子	
京坂喜美子	

112 112

108 | 111

七月の創作批評〈※文芸時評〉⁽²⁾
 ルーズヴェルト大統領は映画フアンのナンバーワン
 窪川 稲子 85—89

〈※トピックス〉⁽³⁾

山・水・二篇

渚を歩く〈※随筆〉

菅平行〈※紀行〉

海外ニュース⁽⁴⁾

和歌

中村 歌子	大井 重代	山下 佳子 ⁽⁴⁾	99—102
椎野 かつ ⁽⁵⁾	相見 雪子	土井 ちよ	
伊藤 菊枝	大塚 文野	臼井 敦子	
松原しま子 ⁽⁶⁾	野沢三枝子		

随筆・感想

税関風景〈※随筆〉

雨の回想〈※随筆〉

或る日の想〈※感想〉

「海燕の唄」について〈※感想〉

庭〈※随筆〉

研究

メリメの小説⁽⁷⁾

西鶴『好色五人女』に見える女性相

万葉集に於ける恋愛歌の種々相〈※第2回〉

海外ニュース

紹介

新映画紹介

平林たい子	113—115
遠山 葉子	115—119
今井 邦子	120—123
藤井田 鶴子	126—127

編集後記

〈注〉

- (1) 目次記載「西川もと子」。
- (2) 末尾に「一九三四・七」の記載あり。
- (3) 末尾に「リタラリイ・ダイジエスト」とある。
- (4) 末尾に「レヴュー・オヴ・レヴュー」より」とある。
- (4) 目次記載「山下住子」。
- (5) 目次記載「推野かつ」。
- (6) 目次記載「杉原しま子」。
- (7) 『平林たい子全集』第十巻（潮出版社、昭54）に所収。

第一巻第三号 九月号

一九三四（昭9）年九月一日発行

表紙装幀

紙面解放のお知らせ*

創作

呆ける〈※小説〉⁽¹⁾

裏切る者〈※戯曲一幕物、目次「裏切り者」〉

蔵かげ

掃郷

「女性苦」について〈※書籍紹介〉*

文芸時評——「半生」の作者を賞す——⁽²⁾

作家と人世観——年少の友に——〈※目次「文学と人

生観」〉

原 信子	目次裏
横田 文子	6—20
藤木 稠子	21—29
須賀 瑞枝	30—42
若杉 鳥子	43—53
平林 英子	29
福田 晴子	54—59
神近 市子	60—64

（神近）（K・T）

128

「雷雨」その他へ※随筆

詩
或る朝のおとぎばなし
肩に積つた雲脂

街の船唄*

母親

悲しみ⁽³⁾

寄稿家通信

生活の彫琢

身边雑記

随筆・感想

母を選ぶ

街の性格——ある紀行の一節——⁽⁴⁾

はるかなるもの

新しいジェネレーション

歌劇少女の手紙⁽⁵⁾

「呆ける」の作者横田文子略歴*

反響⁽⁶⁾

トピックス*

海外ニュース

新映画紹介

長崎再遊記へ※紀行

婦人文芸告知板*

革命の一挿話

村山 篤子 65 | 67

英 美子 68

櫻野 恒子 69

阿藤ういぬ 70 | 71

波乃 宏子 72 | 73

平林たい子 74

神近 市子

古賀 英子 75 | 77

小坂たき子 78 | 81

竹内てるよ 81 | 83

原 信子 83 | 84

小寺 菊子 84 | 89

藤井田鶴子 90 | 93

神近 市子 94 | 97

バルザック 106 | 121

八木さわ子 105

和歌 生方たつゑ 梅沢 貞 中根 みや

皆藤きみ子

明治の婦人作家へ※第1回

婦人文芸消息*

編集後記

〈注〉

(1) 末尾に「一九三四年春」と記載。

(2) 末尾に「一九三四、七、二五」の日付あり。

(3) 末尾に「一九一〇年の肖像を前にして」とある。

(4) 末尾に「一九三四、六、一二」の日付あり。

(5) 窪川稲子、小山いと子、松田解子、中条百合子、鷹野つぎ、大谷藤子らが短文を寄せている。中条の文は『宮本百合子全集』第十七巻(新日本出版社、昭56)に所収。

(6) 窪川稲子、小山いと子、松田解子、中条百合子、鷹野つぎ、大谷藤子らが短文を寄せている。中条の文は『宮本百合子全集』第十七巻(新日本出版社、昭56)に所収。

第一巻第四号 十月号

一九三四(昭9)年十月一日発行

表紙装幀

創作へ※小説

おいらん草⁽¹⁾

前科者の遺族⁽²⁾

瓢箪⁽³⁾

話しかける人

文芸時評⁽⁴⁾

原 信子

若林つや子 6 | 26

仲町 貞子 27 | 32

野辺由利子 33 | 50

真杉 静枝 51 | 69

福田 晴子 70 | 79

はがき問答(5)

トピックス*

婦人文芸消息*

文芸に於けるフェミニズム(※評論)(6)

詩

湖

墓標

窓

蓮

婦人文芸発刊記念講演会予告*

明治の婦人作家(※第2回)(7)

寄稿家紹介(8)

随筆

秋のペルリナージュ

ジプシーの幌馬車

産院の秋

海外ニュース

アメリカ美術界の新動向

新映画紹介

長篇翻訳小説(※第1回)

愛慾を見た少女(10)

編集後記

〈注〉

(1) 末尾「にこの小篇を病友A・Sのために、一九三四・八・二

70	75	79	88	89	92	93	100	103	105	107	111	114	131
75	79	88	89	92	93	100	103	105	107	111	114	131	

露木 陽子

若杉 香子

竹内てるよ

神崎 清

森 三千代

高田せい子

藤原 あき(9)

藤井田鶴子

A・ルウベ・ジャンスキー(11)

桃井京次訳

(神近)(K・G)(H子)

表紙装幀

紙面解放のお知らせ*

三信州軽井沢にて」の記載あり。

(2) 末尾に「八月二十六日朝」の記載あり。

(3) 末尾に「一九三四、四、二〇」の日付あり。

(4) 末尾に「一九三四・八・三一」の日付あり。

(5) 問いは以下の二つ。「一、あなたは婦人作家に対してどういふことを希望せられますか 二、現在の婦人作家の中ではどなたに嚮望しておられますか」。回答者は、徳永直、藤森成吉、芹沢光治良、青野季吉、杉山平助、山田清三郎、岡田三郎、江口渙、秋田雨雀、亀井勝一郎、千葉亀雄、長谷川時雨の十二名。

(6) 「問題への模索——T氏に——」という小題のついた文章があるが、それに関して、末尾に附記で「上記「問題への模索」と題する文章は、八月十五日から四日間「都新聞」に連載したものを同紙の御好意を得て転載したものである。」の一文がある。

(7) 末尾に「七月二十七日於帝大基督教青年会館講演」の記載あり。

(8) 野辺由利子、須賀瑞枝、藤木稠子の紹介。

(9) 目次記載「藤原あき子」。

(10) はじめに作者と作品についての解説がある。

(11) 目次記載「ジャンスキー」。

第一巻第五号 秋期特大号

一九三四(昭9)年十一月一日号

村山 知義

目次裏

創作〈※小説〉

啄木鳥

この舗道

電報

冬

伯林の落葉〈※小品〉⁽²⁾

一昼夜

見落されてゐる急所——文学と生活との関係にふ

れて——〈※評論〉⁽³⁾

「同志アンナ」ソヴェート観光の英国人の手記の一部——*

随筆

武甲山麓

号令

感情の舗装

一ヶ月と一千元

文芸時評

はがき問答*⁽⁴⁾

二科展女流作家評〈※目次「二科婦人作家評」〉

御消息*⁽⁵⁾

海外文芸ニュース

美しいが創造力がない——支那を評してパール・バックは云ふ——

「私は如何にして戯曲を書くか」——バーナード・

シヨウ語る——

辻村もと子 6 | 19

日下 典子 20 | 29

土屋 滋子 30 | 50

渡辺 朝⁽¹⁾ 51 | 63

岡本かの子 64 | 66

小坂たき子 67 | 78

中条百合子 79 | 84

大谷 藤子 85 | 87

平林 英子 87 | 89

葵 イツ子 90 | 91

藍川 陽子 91 | 94

福田 晴子 95 | 102

原 よしみ 103 | 109

原 よしみ 103 | 109

95 | 101

95 | 102

91 | 94

90 | 91

91 | 94

95 | 102

103 | 109

103 | 109

110 | 113

113 | 114

ルホルタアジユ賑ふ仏壇

七つの山彦の谷——アメリカの旅日記——

詩

九月五日

朝

自決

若き日の苑⁽⁶⁾

宿望

窪川稲子氏の「牡丹のある家」——婦人作家の感想——

出版記念会〈※報告、目次「窪川稲子氏の出版記念会」〉

自己への感想〈※随筆〉

寄稿家通信

感想

アンドレアス・ビエール氏のこと⁽⁷⁾

嵐⁽⁸⁾

二科展印象記⁽⁹⁾

祝賀会のこと

最初の奴隷船〈※ルポ〉

住居難〈※小品〉

廃屋の蝶人〈※小品〉

十五〈※小品〉

長篇翻訳小説〈※第2回〉

愛慾を見た少女

K・M・R 114 | 115

高良 富子 116 | 120

松田 解子 121

岡村須磨子 122 | 123

露木 陽子 124 | 125

竹内てるよ 126 | 127

窪川 稲子 130 | 129

平林たい子 134 | 135

矢田津世子 135 | 136

松田 解子 136

福田 晴子 137 | 138

神近 市子 138

中島 幸子 139 | 142

河東 清子 143 | 145

波乃 宏子 145 | 148

古賀 英子 148 | 149

A・ルウベ・ジャンスキ⁽¹⁰⁾

桃井京次⁽¹⁰⁾

152 | 158

152 | 158

152 | 158

152 | 158

152 | 158

152 | 158

152 | 158

短歌

衣の皺

大沢 春子

水蓮

永田 露子

片われ月

黒沢 斉子

露草

中島千栄子

彼岸会

中路 知子

創作方法の問題などについてへ※文芸時評、目次「創作問題などについて」

作問題などについて」

石浜 秀子

162 | 165

原始人は赤ん坊のやうな物の云ひ方をしたのだらうが

へ※トピックスへ*

165

タルテュフと新築地劇団へ※演劇時評⁽¹¹⁾

村田 修子

166 | 168

新しい映画の紹介

藤井田 鶴子

169 | 171

映画批評

真杉 静枝

172 | 173

パラシユートの雨 豚やジャズ・バンドが落下へ※トピックスへ*

173

読者の頁

小笛 瑳智子

174 | 177

涼秋へ※入選小説

山本 松子

195 | 203

起きあがるものへ※入選小説

（神近市子）(KG) (H子)

204

編集後記

（注）

204

（1）目次記載「渡辺朝子」。

（2）『岡本かの子全集』第十一卷（冬樹社、昭51）に所収。

（3）末尾に「一九三四・一〇・七」の日付あり。『宮本百合子全集』第十卷（新日本出版社、昭55）に所収。

（4）質問は「一、あなたは将来どう云ふ作品を描かうと思つておられますか。二、過去の大家の中ではどんな作品が好きです

か。」の二つ。回答者は、平林たい子、平林英子、窪川稲子、小山いと子、小坂たき子、樺山千代、真杉静枝、森三千代、松本喜美子、仲町貞子、土屋滋子、大谷藤、若林つや子、矢田津世子、無名氏の十五名。

(5) なかに、今井邦子、大谷藤、仲町貞子、矢田津世子、平林英子、小山いと子らの文もみえる。

(6) 「1・リボン、2・マリアの眸、3・小鳥」の三篇の散文詩。

(7) 末尾に筆者による簡単な断り書きあり。

(8) 末尾に「九月三十日」の日付あり。

(9) 末尾に「九、二二」とある。

(10) 目次記載「ジャンスキー」のみ。

(11) 末尾に「一九三四、一〇、六」の日付あり。

第一巻第六号 女流芸術家と実生活号

一九三四（昭9）年十二月一日発行

創作

海辺の記憶へ※小説

高橋 鈴子 6 | 25

負債へ※入選小説

中原ゆき子 26 | 28

背徳の記へ※小説

藍川 陽子 29 | 62

影へ※入選小説

西川 智子 63 | 65

時評・評論

文芸時評

永井 街子 66 | 72

帝展洋画批評

川上 津江 73 | 78

帝展を観ての感想

中条百合子 78 | 80

詩

81 | 90

縫工の歌
緋絹、旗——混血児シヤールさんに捧ぐ——

声、岩木山

秋の微笑へ※目次「歌の微笑」

哀唱

夢、自嘲

落葉

婦人作家と環境の問題へ※評論

文芸雑感二三*

十月廿六日於朝日講堂婦人文芸講演会の記

女流作家の印象*へ※聴講印象記

新刊紹介

江口渙氏著「火山の下に」を読む*

女流芸術家と実生活記録

生活的な文学と文学的生活と

描く喜び・描く苦心

したわれの実

習作時代故に

ダンサーとしての労働

新劇女優の苦闘

音楽家生活

後藤 郁子

武島たま子

村上 小牧

方等みゆき

くらたゆかり

近藤富貴子

高柳 奈美

福田 晴子

石浜 秀子

神近 市子

生田 花世

丸岡 秀子

S U 生投
長田いせ子

松田 解子

松田 解子

甲斐 仁代

英 美子

平林 英子

水町 葉子

山本 安英

関 鑑子

122 | 124

121 | 122

118 | 121

117 | 118

115 | 116

113 | 115

111 | 113

105 | 108

100 | 105

105 | 109

103 | 105

100 | 103

96 | 99

91 | 95

短歌

高原の花

朝露

旅心

水苔

老松

生活を歌ふ

飯塚 要子

伊吹山百合子

森 勝子

小倉 寿子

森川 道子

矢追 光子

倉沢 薫

鈴木 妙子

大原 富枝

矢田部静枝

星野 晴

小山とみ子

高取 春子

齊藤 英子

大沢富美子

西田やゑ子

熊谷みどり

水野 明子⁽¹⁾

黒沢かく子

125 | 129

寄稿家通信

『父親の鼻』の弁解

海外文芸ニュース

沙漠に花ひらくを読む

婦人文芸告知板へ※女流名家の近況

新しい映画紹介

読者の頁

長篇翻訳小説へ※第3回

愛慾を見た少女

編集後記

創刊号〜第一巻第五号までの目次*

A・ルウベ・ジャンスキー⁽²⁾
桃井京次記

(神近)(A)(村田)

156 | 157

145 | 155

143 | 144

藤井田鶴子

139 | 139

平林たい子

135 | 138

富木 一枝

〔注〕

- (1) 目次記載「水町明子」。
- (2) 目次記載「ジャンスキイ」。

第二卷第一号 新年特集号

一九三五（昭和10）年一月一日発行

女性の歌〔※詩〕

深尾須磨子 10

創作

田舎者〔※長篇小説、第1回〕

松田 解子 11 | 25

肉身〔※小説〕

横田 文子 26 | 56

村の惨事〔※入選小説〕

須賀 瑞枝 57 | 71

柘榴〔※小説〕

森 三千代 72 | 90

母の手紙〔※書函〕

大谷 藤子 91 | 97

隣邦文壇紹介

中華民国の婦人作家

竹中 繁子 98 | 100

朝鮮の女流文士

李 劍 鳴 100 | 105

はがき問答——内外文芸作品に現れたあなたの最も好

文壇諸氏数十名(1) 107 | 114

きな男性・女性?——

114

婦人文芸告知板*

114

研究

万葉集に於ける恋愛歌の種々相〔※第3回〕 今井 邦子 116 | 123

西鶴のおさんと近松のおさん——元禄文学研究の一

遠山 葉子 123 | 134

つゝの覚え書——

遠山 葉子 123 | 134

若き女形と女優——ラジオ草稿——

長谷川時雨 134 | 138

詩

冬の平原

村上 小牧

139 | 141

小犬

武島たま子(2)

山麓にて

椎木美代子(4)

無題(開会を待ちつゝ)

人力車夫にあたふ(3)

武島たま子

和歌

哀しき日

鷺見 光子

142 | 143

我が身

龍二 庸子

時雨

大原 富枝

赤い花

静田 惇

越後湯沢温泉にて

古関 金子

挽歌

鈴木 武子

演劇批評

新協劇団の第一回公演『夜明け前』を観て(5)

小杉 輝

大根会議〔※随筆〕

生田 花世

工場裏で拾った手紙*

小暮 妙子

或る職人の妻の歌*

館山しのぶ

新映画紹介

藤井田鶴子

婦人文芸十二月号の詩をよみて*

紙面解放のお知らせ*

富沢美穂子

宇津保の人々〔※研究、第1回〕——あてみや——

富沢美穂子

156 | 160

天保長恨記〈※読物〉

大須成 秋 161 | 175

文芸時評⁽⁶⁾

窪川 稲子 177 | 182

題材断片〈※文芸時評〉⁽⁷⁾

平林たい子 183 | 185

映画批評

一九三四年の映画を憶ひ新しき映画への期待

村山 寿子 186 | 189

新しき日へ——結婚する友C子におくる——*

竹内てるよ 186 | 189

『世界現代婦人作家』連載の予告*

方等みゆき 190

アグネス・スメドレーの女一人大地を行く*

X Y Z 190

詩集きりのはなを讀みて*

長篇翻訳小説〈※第4回〉

愛慾を見た少女

A・ルウベ・ジャンスキー⁽⁸⁾ 191 | 209

謹賀新年〈※女流名家住所録〉*

桃井京次⁽⁸⁾ 191 | 209

編集室或日のポーズ

神近 市子 210 | 212

新年の御挨拶*

村田 修子 214

来朝中の中国女流作家謝泳瑩女史を囲んで*

(神近) (村田) 215

編集後記

〔注〕

(1) 平林英子、尾崎士郎、細田民樹、太田洋子、林芙美子、亀井

勝一郎、中条百合子、生田花世、北川千代、藤森成吉、日下典

子、小寺菊子、福田晴子、矢崎弾、水町葉子、徳永直、杉山平

助、岡田三郎、千葉亀雄、阿部真之助、戸坂潤、矢田津世子、

春山俊夫、山川朱実、仲町貞子、森山格、江口渕、和木清三

郎、神崎清、関鑑子、今井邦子、細川ちか子、上泉秀信、英美

子、貴司山治、石本静枝、森三千代の三十七名が回答。

(2) 目次記載「武島たき子」。

(3) 末尾に「昭和九、九」とある。

(4) 目次記載「推木美代子」。

(5) 末尾に「一九三四、一一、二」の日付あり。

(6) 末尾に「一九三四・十二」の記載あり。

(7) 『平林たい子全集』第十卷(潮出版社、昭54)に所収。

(8) 目次記載「ジャンスキー」のみ。

第二卷第二号 EXOTIC号

一九三五(昭10)年二月一日発行

創作・翻訳

薔薇と夜啼鶯〈※翻訳小説〉⁽¹⁾

梅姑娘(梅ちゃん)〈※翻訳小説〉⁽²⁾

施米〈※入選小説〉

青い風〈※小説〉⁽⁴⁾

長篇翻訳小説〈※第5回〉

愛慾を見た少女

海外文芸ニュース〈※目次「海外ニュース」〉

独逸ツクマイエルの新作戯曲

伊太利ピランデロ

近代スペイン文学界

文芸時評(一)*

ウェーラ・インベル 6 | 15

広島徳四郎⁽³⁾ 16 | 30

氷好⁽³⁾ 31 | 36

竹内 妙子 37 | 48

鈴木 妙子 31 | 36

大石千代子 37 | 48

A・ルウベ・ジャンスキー⁽⁵⁾ 49 | 72

桃井京次⁽⁵⁾ 49 | 72

舟木 重信 73 | 75

狩野 弘子 75 | 79

永井 街子 73 | 82

79 | 84

73 | 82

告知板*

誌友の頁*

詩の新らしき時代の波動について——女詩人中心に——

〈※評論〉

詩

凡庸の手袋

椿

託児所の子供は歌ふ

大時計

塗れどまよ

小川

短歌

仏法僧鳥

松山

旅

伊勢の海

冬のよろこび

ウインタースポーツ

雪の山の温泉から——東京の友へ——(7)

一九三五年初春登山記——雪の富士——(8)

吹雪のメロデー(9)

誌友の頁*⁽¹⁰⁾

研究

宇津保の人々〈※第2回〉——あてみや(2)藤原君の

福田 晴子 82 | 88

79 | 88

生田 花世 89 | 92

95 | 98

英 美子

赤沢佐以子

赤沢佐以子

武島たま子

古関 金子

村上 克子

99 | 100

椎野 かつ

小宅しやう

堀 八重子

中根 ミヤ

梅沢 貞

黒田 米子 101 | 104

中村 テル 105 | 110

沢 智子 111 | 113

114 | 116

巻——⁽¹¹⁾

万葉集に於ける恋愛歌種々相〈※第4回〉

世界近代婦人家評伝〈※目次「世界近代婦人作家評

伝」、第1回〉

新しい映画の紹介

長篇小説

田舎者〈※第2回〉

婦人文芸支部の新設〈※お知らせ〉*

紙面解放のお知らせ*

編集後記

〈注〉

- (1) 末尾に訳者による原作者の紹介あり。
- (2) 末尾には「一九三一・九・廿九・於東京改作(竹内好訳)」の次に訳者の附記あり。
- (3) 目次記載「謝氷室」。
- (4) 末尾に「一九三四・一〇・一五、サン・パウロにて」と記載。
- (5) 目次記載「ジャンスキー」。
- (6) 末尾に「一九三五・一・三」の日付あり。
- (7) 末尾に「昭和十年一月」とある。
- (8) 末尾に「一九三五・一・一〇」の日付あり。
- (9) 末尾に「一九三五・一・一一」の日付あり。
- (10) 藍川陽子、真杉静枝、藤島まきらの文もみえる。
- (11) 末尾に「前回の正誤」が記されている。

富沢美穂子 117 | 122

今井 邦子 123 | 128

高橋 友子 129 | 140

藤井田鶴子 141 | 143

松田 解子 144 | 160

161

162

第二卷第三号 私のスタート特集号
一九三五（昭和10）年三月一日発行

巻頭言

神近 市子 9

創作（※小説）

石狩原野

辻村もと子 10—18

情慾

深尾須磨子 19—27

伸びて行くもの

樺山 千代⁽¹⁾ 28—46

ありふれたる素描

吉尾なつ子 47—60

愛憎（※入選）

泉田 律子 61—70

だぶる

日野 たつ 71—82

文芸評論

自己認識の道（※目次「自己認識への道」⁽²⁾

福田 晴子 83—87

平林 英子 88—91

真杉 静枝 91—93

広島徳四郎 94—100

武島たま子 101—103

エレベーター・ガール——修理再開不可能!!——（※

小品）

正木 とし⁽³⁾ 104—109

化粧と洋裁に現はれた近代味

専門家数十氏⁽⁴⁾ 101—108

芸術家としてのスタートの思出（※回想、目次「芸術

家としての私のスタート」

行方不明の処女作⁽⁵⁾

中条百合子 110—113

築地小劇場・蒲田処女出演の思出⁽⁶⁾

及川 道子 114—117

帝劇の初舞台

山本 安英 118—121

文芸戦線と解放に発表処女作の頃⁽⁷⁾

平林たい子 122—123

台辞に困った初出演

原 信子 124—125

処女作と周囲

松田 解子 126—128

女優志願の頃

細川ちか子 129—133

拾歳の頃唄つた『ファイガロの結婚』処女出演の思出

関屋 敏子 134—136

詩集「氷嶺」の志望（※図書推薦文）*

生田 花世 136—138

新宿姥捨山（※ゴシップ）*

藤井田鶴子 138—140

新しい映画の紹介

研究

宇津保の人々（※第3回）——あてみや(3)藤原君の

富沢美穂子 141—145

研究

婦人文芸主催高田せい子第十回新作舞踊発表会（※お

知らせ、目次「本誌主催高田せい子氏第十回新作発

表会記事」

投稿短歌⁽⁸⁾

投稿詩

長篇小説

田舎者（※第3回）

松田 解子 154—175

長篇翻訳小説（※第6回）

愛慾を見た少女

A・ルウベ・ジャンスキー⁽⁹⁾

桃井京次 176—196

愛慾を見た少女

— 25 —

〔注〕

- (1) 目次記載「樺山千代子」。
 (2) 末尾に「一九三五・一・三〇」の記載あり。
 (3) 目次記載「正木とし子」。
 (4) 「目を深く見せる」上野松坂屋美容室・芝山みよか、「創作的であれ」小口みち子、「身体の線の意識」オリエンタル婦人帽子店洋服部、「動的な、刺戟的な」新劇女優・岸輝子、「洋服は進歩した」高橋洋裁女学校長・高橋豊洋、「化粧」教養・趣味「南部たかね、「研究を要す」渡辺女学校・渡辺滋、「個性的であれ」東京赤坂サン美粧院、「外国女優のまねは不賛成です」大場静子
- (5) 末尾に「一九三五・一・二七」の日付あり。
 (6) 末尾に「一九三五・一・二九」の日付あり。
 (7) 『平林たい子全集』第十卷(潮出版社、昭54)に所収。
 (8) なかに大原富枝の「歳暮」と題する短歌あり。
 (9) 目次記載「ジャンスキー」のみ。

第二巻第四号 モダーン恋愛観特集号

一九三五(昭10)年四月一日発行

巻頭言

創作〔※小説〕

月給日(1)

露店記

氷雨〔※入選〕

神近 市子 9

壺井 栄 10 | 17

徳久 歌子 18 | 42

大原 富枝 43 | 51

文芸時評

文芸時評に現れた批評家の態度〔※文芸時評〕

訂正*⁽²⁾、紙面解放のお知らせ*

婦人作家に与へる言葉

個の展開と拡大

『女らしさ』の不純⁽³⁾

堂々たる描写を望む

下らぬこと⁽⁴⁾

映画時評

映画とインテリゲンチヤ——映画評論の新傾向に關聯

して——〔※評論〕

映画界便り

告知板*

世界近代婦人作家評伝〔※第3回〕

生活記録

車掌生活の断面

或る日の溜息

お菓子〓凶作地から〔※目次「お菓子」のみ〕

託児所にて

婦人文芸神戸支部設置について

大阪支部の誕生

福岡地方支部

新しい映画の紹介

福田 晴子 6052 | 6460

石浜 秀子 65 | 71

光成 秀子 65 | 71

千葉 亀雄 72 | 74

戸坂 潤 74 | 75

徳永 直 75 | 76

武田麟太郎 76 | 77

村山 壽子 78 | 80

栗原 章子 81 | 85

高橋 友子 86 | 100

津川 文子⁽⁵⁾ 101 | 102

高橋あやめ 102 | 103

外木ゆたか 103 | 104

赤沢佐以子 104 | 106

光成 愿子 101 | 105

加藤 敏子⁽⁶⁾ 105 | 106

小田 初枝 106

藤井田鶴子 107 | 111

誌——*

北水洋脱出記〈※手記〉⁽⁷⁾

A・スウシユキナ女史

113 | 122

恋愛観・結婚観

時代の推移と恋愛観

恋愛の一時性と遊戯観に就いて⁽⁸⁾

恋愛・理解と信頼の幸福

恋愛と芸術——アフォリズム風に——

現代婦人の恋愛・結婚

遊戯的恋愛に關聯して⁽⁹⁾

結婚否定Ⅱ恋愛至上

或る結婚生活の否定者

病床より施療患者として〈※隨筆、第1回〉

「愛慾を見た少女」連載中止のお知らせ⁽¹⁰⁾

芸術家たれかれ印象記⁽¹¹⁾

宇津保の人々——あてみや——〈※第4回〉

短歌⁽¹²⁾

詩⁽¹³⁾

長篇小説
田舎者〈※第4回〉

誌友通信*

ゴシップ*

編集後記

(神近)(矢東)

192

松田 解子

178 | 190

丸岡 秀子

123 | 126

日下 典子

127 | 131

水町 葉子

132 | 133

森 三千代

134 | 135

高橋 鈴子

136 | 139

若林つや子

140 | 145

英 美子

146 | 149

大迫 規子

150 | 153

永井 街子

154 | 158

伊藤 静枝

159 | 163

富沢美穂子

165 | 169

170 | 171

171 | 177

191

191

191

191

192

摩書房、昭43)に所収。

(2) 前号の文芸時評(真杉静枝)の中の誤植訂正。

(3) 末尾に「一九三五、二」とある。

(4) 末尾に「三月五日」の日付あり。

(5) 目次記載「津田文子」。

(6) 本文署名上に「本誌記者」と記載。

(7) これはある探険隊員の手記であることなどを記した解題がはじめにある。また、末尾には「中野新子」と記載。

(8) 末尾に「一九三五、二、一」の日付あり。

(9) 末尾に「一九三五、二、二七」の日付あり。

(10) 「ジャンスキーの『愛慾を見た少女』は永い間連載ものとして非常に好評を博して、約三分の二近くは発表しましたが、今

度都合により中止することになりました。」の一文あり。

(11) 長谷川時雨、ダン道子、東郷青児と宇野千代、久保田万太郎、深尾須磨子と荻野綾子、三田村鳶魚、花柳寿美、中条百合子、三升家小勝、市川房枝と金子しげりらについての印象。

(12) 「心」田原明子、「つとめ」原潤子、「真冬」倉沢薫、「三等郵便局から」竹田和子、「春最近か」二木志津子、「早春」高橋あやめ、「病める君へ」小田初枝。

(13) 「水」岡村須磨子、「ビスケット」浅井花子、「厳冬の金魚」高橋たか子、「子守唄」竹内てるよ、「或る思ひ」「白い心」鈴木武子、「赤い芽」石川勝子、「鼠(新しき友芳野邦子氏へ捧ぐ)」武島たま子の八篇掲載。

第二卷第五号 五月号

一九三五(昭10)年五月一日発行

創作〈※小説〉

(1) 末尾に「一九三五、二」とある。『壺井栄全集』第七卷(筑)

桎梏

おみの(1)

弟

名門の子(2)

文芸時評

本誌主催高田氏舞踊発表会(※報告)

芸術と婦人の桎梏(※評論)

人間一般へ解消する(※評論)

金曜会の「カルメン」を見る(※感想)

嶺山・長英(※随筆)

短篇について(※感想)

紙面解放のお知らせ*

銀座街の色彩に就て——一九三五・三・五 R・M

誌——*

「女らしさ」について(※感想)

作者の芸術的感情と現実——チエーホフの手帖を読む

——(書評、目次「作者の芸術的感性と現実」)⁽⁴⁾

『創作座』を見て

ソヴェートに於けるわれわれの喜びと誇り(※翻訳評)

論⁽⁵⁾

本誌大阪支部員奥田白春著、詩集「早春」の紹介(※目

次「詩集「早春」の紹介」のみ)

映画時評(※目次「外国映画時評」)

藤島 まき 10 | 32

横田 文子 33 | 52

矢田津世子 53 | 77

森 三千代 78 | 95

神近 市子 9996 | 10699

石浜 秀子 9996 | 10699

村山 知義 108

細田 民勝⁽³⁾ 109

秋田 雨雀 110 | 111

藤森 成吉 112 | 113

丹羽 文雄 114 | 115

115

116

117 | 118

森山 啓

窪川 稲子 120 | 121

122

123 | 125

126

127 | 130

ア・カレワノワ

山村房次訳

生田 花世

村山 篤子

本誌の活躍*⁽⁶⁾

福岡地方支部設置に就いて

新しい映画の紹介

試写室のぞき

日本映画の批評(※目次「日本映画時評」)

世界近代婦人作家評伝(※第4回)

円地文子氏の短篇戯曲集「惜春」を読む

手すさびの花

本誌支部募集のお知らせ*

たれかれ印象記⁽⁸⁾

婦人文芸読者会(※お知らせ)

投稿詩

投稿短歌⁽⁹⁾

長篇小説

田舎者(※第5回)⁽¹⁰⁾

編集後記

(注)

小田 初枝 130

藤井田鶴子 131 | 137

132 | 137

138

栗原 章子 139 | 141

高橋 友子 142 | 151

152

押川 如水⁽⁷⁾ 153

153

伊藤 静枝 154 | 157

157

161 | 162

158 | 160

161 | 162

松田 解子 163 | 175

176

(神近)(加藤)

(1) 末尾に「一九三五・三・十五」の日付あり。

(2) 末尾に「一九三五・一月」の記載あり。

(3) 目次記載「細田民樹」。

(4) 『佐多稲子全集』第十六卷(講談社、昭52)に「現実と芸術性——チエーホフの不幸——」として収載。

(5) はじめに訳者による解説あり。これは演説を翻訳したものである。尚、訳者の氏名は目次記載なし。

(6) 「本誌は今後映画は勿論、演劇・レコード・音楽・絵画・さてはレビュウに至るまで大いに手をのばし、一般芸術の紹介批評を試みる考です。」とある。

- (7) 署名上に「松風流家元」と記載。
 (8) 今井邦子、市丸、厨川蝶子、鍋島栄子、伊藤静江、大辻司郎
 についての印象。
 (9) なかに大原富枝の「芽生え」と題する短歌あり。
 (10) 末尾に附記として(前号第二卷第四号)の小題番号の訂正がある。

第二卷第六号 婦人と種々なタイプ号
 一九三五(昭十)年六月一日発行

婦人文芸一週年紀念講演と映画の夕へ※お知らせ)*

巻頭言

創作

泥濘の春へ※小説

猫とこどもへ※小説

腕へ※小説⁽¹⁾

避暑へ※小説

婦人と種々なタイプ

彼女は自然であるへ※随筆

清新なる女性型へ※随筆

卒直な階級性へ※感想

女三人へ※随筆⁽²⁾

江戸時代の娘へ※感想

鹿鳴館時代の女性を語るへ※随筆

支那婦人の一抗議へ※評論

神近 市子 9

浅井 花子 10 | 40

小山いと子 41 | 46

仲町 貞子 47 | 54

高見沢直江 55 | 73

片岡 鉄兵 74 | 75

新居 格 76 | 78

亀井勝一郎 79 | 80

中野 重治 81 | 83

宮川 曼魚 84

神崎 清 85 | 87

竹中 繁子 88 | 89

アメリカ現代婦人の型へ※談話筆記

胡瓜の歌へ※詩

文芸時評(一)

(二)

批評家たちの弱点へ※評論

「花嫁学校」を観るへ※感想

今夏の婦人帽——パナマの常識と可否——

大阪支部設置に就いて

大阪支部だより⁽⁴⁾

若き人へ・文壇は飢えてゐる——文壇への自戒をその

まゝ——へ※感想

詩を失つた世界*

世界近代婦人作家評伝へ※第5回

世界に流行の徴あるバンク

初夏の室内構成

趣味の室内装飾

歯と美容についての一二へ※目次「歯と美容について

の小見

ソヴェート映画の理想と現実——本年二月ソヴェート

映画十五周年記念祝賀会に於ける演説——⁽⁸⁾

日本映画時評

新しい映画の紹介

私のペットへ※随筆

私の心蔵⁽¹⁰⁾

梶 不二夫 90 | 91

深尾須磨子 92

福田 晴子 93 | 97

遠山 葉子 98 | 100

光成 秀子 101 | 105

松田 解子 106

赤石 敬一⁽³⁾ 107

108 | 109

108 | 109

矢崎 弾 110 | 113

浜田 慎尾 113

高橋 友子 114 | 122

吉行あぐり 123

勝瀬 壮一⁽⁵⁾ 123 | 124

平尾 真⁽⁶⁾ 124

斉藤 悦朗⁽⁷⁾ 125

悦朗⁽⁷⁾

スツッキイ⁽⁹⁾ 126 | 130

栗原 章子 131 | 135

藤井田鶴子 136 | 139

岡本かの子 140

136 | 139

131 | 135

136 | 139

140

鶯

人形其の他

空中の友

映画界便り

晩春の日記^四

たれかれ印象記^四

日本のレヴュー

投稿詩

投稿短歌

詩人としてのラスキン^{※詩}

長篇小説

田舎者^{※第6回}

紙面解放のお知らせ*

編集後記

関屋 敏子 141

四家 文子 142 | 143

杉田千代乃 143 | 144

平林たい子 140 | 144

伊藤 静枝 145 | 146

清水 俊二 147 | 149

R・M生訳 150 | 151

154 | 156

192 | 154

157

松田 解子 159 | 172

174

(神近)(加藤)(松井)

174

(1) 末尾に「四月三十日午後」の記載あり。

(2) 末尾に「五月四日」の日付あり。

(3) 末尾にある署名の上に「チェリー」と記載。

(4) 末尾に「十、四、二十五」の日付あり。

(5) 末尾の署名上に「伊東屋」とある。

(6) 末尾の署名上に「美貌堂設計部」とある。

(7) 末尾に「医学博士」と記載。

(8) 末尾に(T・H)のサインあり。

(9) 署名上に「ソ聯芸術管理局長」とある。

(10) 『岡本かの子全集』第十三卷(冬樹社、昭51)に所収。

(11) 『平林たい子全集』第十二卷(潮出版社、昭54)に所収。

いての印象。

第二巻第七号 一週年記念特大号

一九三五(昭10)年七月一日発行

一週年記念御挨拶

創作^{※小説}

ある時代のノート

母の手紙

万助の飜心⁽¹⁾

郭公

最近の文学の問題について^{※文芸時評}

新劇倶楽部と進歩的演劇^{※演劇時評}

家族小説の一面——アンメルス・キューイラア夫人の

「叛逆時代」——^{※紹介、評論}

流行作家^{※似顔絵と短文}*

横山美智子さん

島木健作氏

作家志望のK君へ^{※随筆}

日本映画の迷塚^{※評論}

音楽の映画化について^{※評論}

『技巧から情緒』の問題を外れて^{※感想}

創作座「鉦」その他

更生の新築地と坂本龍馬⁽⁴⁾

神近 市子 9

小坂たき子 10 | 31

土屋 滋子 32 | 41

須賀 瑞枝 42 | 63

辻村もと子 64 | 72

戸坂 潤 73 | 77

久板栄二郎⁽²⁾ 78 | 79

千葉 亀雄 80 | 83

森熊 猛 85 84

丹羽 文雄 86 | 88

菊盛 英夫⁽³⁾ 89 | 90

伊庭 孝 91 | 92

芹沢光治良 93 | 94

96 | 97

96

96

96

96

96

連載翻訳小説〈※第1回〉

カブナウリの復讐

ヘレーナ・ボビンスカ作

峯 弘子訳 98 | 116

艦声〈※小説〉⁽⁵⁾

子供に及ぼすコーヒーの可否

森 三千代 117 | 130

貝殻墓地〈※詩〉

合原 滋 131 | 130

文芸時評

(一)

(二) — 六月号の新潮 — ⁽⁶⁾

(三) — 行動主義文学 —

三ヶ島霞子氏の人及び歌を評す〈※評論〉

神近 市子 134 | 137

文学方法論の対立的二方向〈※文芸時評〉

真杉 静枝 137 | 138

夏の婦人服

石浜 秀子 138 | 143

新しい角度から見た香水の話

今井 邦子 144 | 151

マイルストンとフェエーデ

光成 秀子 152 | 155

探偵映画について — 影なき男 (原名“The Thin man”) —

牛山 隆介 ⁽⁷⁾ 156 | 157

日本映画時評

山本篤治氏 ⁽⁸⁾ 157 | 160

五月風〈※短歌〉

村山 籌子 158 | 160

新しい映画の紹介

村山 籌子 160 | 162

たれかれ印象記 ⁽⁹⁾

栗原 章子 163 | 166

松田さんの印象*

加藤 隆子 167 | 167

七月の印象〈※随筆〉

藤井田 鶴子 168 | 173

巴里スナップショット — 巴里の七月の印象 —

伊藤 静枝 176 | 179

七月の印象

神近 市子 180 | 180

ミラノの七月

音楽のこと — ちかごろの感想 — ⁽¹⁰⁾

岡田 静枝 181 | 183

「テームズ」の一節 — 世界に摘む花より — ⁽¹¹⁾

藤原 あき 183 | 185

花と雨と — 七月蒙古地を行きて —

吉田たか子 185 | 188

生活記録

岡本かの子 188 | 190

女車掌の朝夕

鳥居みどり ⁽¹²⁾ 191 | 193

トイレットのひと時

森田たね子 194 | 195

田舎の或日

佐川 ふみ 195 | 196

支部だより

坂下 愛子 196 | 198

大阪支部だより ⁽¹³⁾

白石 きく 194 | 198

福岡支部便り

二科・丹下富士雄 199 | 200

野生会を見る

映画会便り〈※目次「映画界だより」〉

投稿詩

紙面解放のお知らせ*

投稿短歌

203 | 207

長篇小説

208 | 209

田舎者〈※第7回〉

松田 解子 212 | 228

第三回婦人文芸読者会茶話会のお知らせ*

229 | 229

編集後記

(加藤) (神近) 229 | 230

婦人文芸一週年記念 講演と映画の夕のお知らせ* ⁽¹⁴⁾

〈注〉

(1) 末尾に「一九三五、六、一」の日付あり。

- (2) 目次署名「久坂栄次郎」。
- (3) 目次記載「菊森英夫」。
- (4) 末尾に(加藤)のサインあり。
- (5) 末尾に「五月十日」の日付あり。
- (6) 末尾に「六・一」の記載あり。
- (7) 末尾にある署名の上に「銀座松屋」と記載。
- (8) 末尾にある署名の上に「資生堂」と記載。
- (9) 神近市子、尾上菊五郎、松内則三、山脇敏子、高島平三郎についての印象。
- (10) 末尾に「一九三五・五・廿七」の日付あり。
- (11) 末尾に「一九三一、七月於ロンドン」の記載あり。これは『岡本かの子全集』第十一巻(冬樹社、昭51)に「チームズ河」として収録されているものの一部である。
- (12) 目次署名「鳥居緑子」。
- (13) 末尾に「十年五月二十六日に、杉村」の記載あり。
- (14) 予定として、講演者には片岡鉄兵、神近市子、新居格、井伏鱒二、松田解子、平林たい子、武田麟太郎、村山知義、森三千代の九氏、映画はW・サマセット・モーム原作「痴人の愛」(『Human Bondage』)全九巻と記されている。

第二巻第八号 女流作家短評号

一九三五(昭10)年八月一日発行

辻村もと子氏の印象(※印象記)

創作(※小説)

投光室で(※目次「投光室」)

檻房(※短篇集)(2)

山川 柳子 9

渡辺 朝(1) 10 | 28

小野 明子 29 | 44

本誌一周年記念講演と映画の夕傍聴記
文壇意識の放棄(※文学評論)
ローザ・ルクセンブルグの文芸観(※翻訳文芸評論、第1回)
イ・ヌシノフ
久林富良抄訳(3)
52 | 60

レコードを聴いて——音楽と生活の聯関——(※音楽評論)
村山 籌子 61 | 63
光成 秀子 64 | 67

批評の問題について(※文芸時評)
『別れの曲』を見て——ジョルジュ・サンドについて——(※感想)(4)
平林たい子 68 | 69

文芸時評

一(5) 福田 晴子 70 | 73

二 石浜 秀子 73 | 77

三(6) 日下 典子 77 | 79

六月の創作座
自由舞台、第一回公演(※目次「東京自由舞台」)(3)
80

文芸映画として稀れに見る『泉』
X Y Z 81 82

女草会展評
中条百合子氏著「冬を越す蕾」を読む* 83

アメリカ作家大会をのぞく(※報告)
松田 解子 83

映画界だより
石垣 綾子(8) 84 | 88

支那だより
89

大阪支部通信(六月例会)
90

福岡支部だより(9)
91

文芸映画是非——「お琴と佐助」を中心に——(※映
91

画時評

同人雑誌総評

木蓮の花(※詩)⁽¹⁰⁾

新しい映画の紹介

シルエットと発声映画

投稿短歌

投稿詩

連載翻訳小説(※第2回)

カブナワリの復讐

真夏の支那料理解剖(※目次「真夏の支那料理」)

真夏の美容三訓

かんさうの花

婦人作家短評

宇野千代さんについて——とりとめのない感想を——⁽¹⁴⁾

「半生」の作者大谷藤子氏

平林たい子さんの印象

林美美子氏短評(※目次「林美美子氏」)

野上弥生子氏

窪川稲子さんのこと

中条百合子さん

夏・夏・夏(※随筆)

私の好きな登山のコース

栗原 章子 92 | 96

永瀬 清子 98 | 100

木村 好子 101

藤井田鶴子 102 | 105

中村 フジ 106 | 108

109 | 110

111 | 113

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

114 | 133

蒙古路の夏から秋

信越線にて

旅日記

長篇小説

田舎者(※第8回)

編集後記

第四回婦人文芸読者茶話会の予告*

紙面解放のお知らせ*

鳥居みどり⁽¹⁶⁾ 151 | 152

杉浦 翠⁽¹⁷⁾ 153 | 154

富本 一枝 154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

154 | 157

〔注〕

(1) 目次記載「渡辺朝子」。

(2) 「おいでの話」「けい子のはなし」「古着屋のばあさんの話」の三篇。

(3) 目次記載「久林抄訳」。

(4) 『平林たい子全集』第十卷(潮出版社、昭54)に所収。

(5) 末尾に「六、二九」の日付あり。

(6) 末尾に「一九三五、七」の記載あり。

(7) 末尾に(加藤)のサインあり。

(8) 署名脇に「在ニュー・ヨーク」とある。

(9) 末尾に(小田)のサインあり。

(10) 末尾に「一九三五、五、七」の日付あり。

(11) 署名は末尾にあるが、その署名上には「銀座秀華」と記載。

(12) 末尾にある署名上に「アメリカ美容室」とある。

(13) 末尾に「一九三五、六、二六」の日付あり。

(14) 目次記載「木下花子」。

(15) 目次記載「鳥居緑子」。

(16) 目次記載「杉浦翠子」。

第二巻第九号 結婚・離婚・独身号
一九三五（昭10）年九月一日発行

巻頭言

創作（※小説）

紅い夕陽へ※目次「紅い夕日」(1)

明子

須賀瑞枝さんへ※印象記

文芸時評

ローザ・ルクセンブルグの文芸観へ※翻訳文芸評論、第2

回——彼女の『トルストイ論』に対する批判——(3)

イ・ヌシノフ
久林富良抄訳(4)

ナチ治下の婦人作家へ※紹介

父兄の敵と恋した女流作家カミラ・コレットへ※紹介

菊盛 英夫 59 | 63

青年知識階級と行動主義——関西講演旅行の印象——(5)

宮原晃一郎 64 | 66

新進作家カルケチュアへ※似顔絵と短文

藤島まき女史 森熊 猛 70

誌友通信 大石千代子(6) 富本 一枝 71

干瓢のネクタイへ※小説 丸岡 秀子 72 | 81

支部だより

福岡支部

大阪支部だより

映画界だより

或る私唱の記録へ※ルポ

方向——一九三二をはり頃——へ※詩(7)

ひとりの弟へ※小説

藤原義江氏と喫煙一夕話*

鎌倉日記よりへ※随筆

連載小説へ※第3回

カブナウリの復讐

投稿創作批評(8)

投稿詩

お知らせ*(9)

投稿短歌

誌面解放のお知らせ*

新しい映画の紹介

結婚・離婚・独身へ※随筆

恋愛・結婚・離婚に就て

くちびる寒し

私の結婚離婚独身問題感

結婚は理想であれど

結婚私感

結婚論

白水 千代

82 | 83

青木 ゆき

84 | 93

中野 鈴子

藍川 陽子

94 | 95

円地 文子

ヘレーナ・ポピンスカ作
峯 弘子訳

114 | 132

藤井田 鶴子

生田 花世

平林 英子

光成 秀子

吉尾 なつ子

山川 朱実

石浜 秀子

138 | 140

142 | 144

145 | 148

148 | 149

151 | 151

153 | 158

前進座を見て〈※演劇時評〉⁽¹⁰⁾

長篇小説

田舎者〈※第9回〉

第四回茶話会の記⁽¹¹⁾

編集室だより〈※目次「編集だより」〉

159—160

松田 解子 161—179

加藤 敏子 180

(神近) (須賀) (光成) (加藤) 181—182

〈注〉

(1) 末尾に「一九三五、七」と記載。

(2) 福田担当の時評末尾には「八、一」の記載あり。

(3) 末尾には附記として、「この小稿は、「リテラトゥールヌイ・クリーク」(一九三三・五)に掲載されたイ・ヌジノフの論文を、適宜に要約し訳したものであるが、意識した個所も可成り多いことを断つておく。」という文あり。

(4) 目次記載「久林抄訳」。

(5) 「何んか最近僕の感想をそこはかとなく書きつけるぐらひで勘弁してもらふことにした。」という前書き、また末尾にはあとがきあり。

(6) 末尾に「六月廿四日サンパウロにて」とある。

(7) 末尾に「一九三五、八月」とある。

(8) 大原富枝の投稿作品「山の上」の評もみえる。「山里の自然や生活に親んでゐる作者の眼の素直さに好意が持てる。文章もびのびと書かれぬる。たゞ作者の意欲が薄手に感じられるのが惜しまれる。」

(9) 解説参照

(10) 末尾に「加藤」のサインあり。

(11) 出席は、平林たい子、松田解子、平林英子を含め30余名であったことが記されている。

第二巻第十号 職業婦人問題特集号

一九三五(昭10)年十月一日発行

巻頭言

職業婦人と家族制度〈※評論〉

職業婦人に与ふ——新女性線の地位の認識——

〈※評論〉

職業婦人礼讃〈※評論〉

各国の職業婦人の状態〈※婦人時評〉、目次「各国の職業婦人の現状」

職業婦人と法律〈※評論〉

現代女性と職業問題〈※婦人時評〉

職業婦人翠川秋氏の死をめぐりて——犠牲と自己主張の間——〈※婦人時評〉⁽¹⁾

社会時評

志賀暁子の墮胎事件、翠川秋子の失踪情死〈※目次

「翠川秋子の失踪怪死」、売策奴隷制度〈※目次

「売笑奴隷制度」

職業婦人座談会

増田(バス車掌)、君島(会社事務員)、宮崎(教員)、原(元銀行事務員)、石井(会社事務員)、田村(工事事務員)、川口(元市役所事務員)、吉水(タイピスト)

神近 市子 7

玉城 肇 8—13

新居 格 14—17

安田徳太郎 18—22

廣川 恒 23—26

飯村 二葉 26—28

井部 愛子 29—35

丸岡 秀子 36—39

狩野 弘子 40—45

増田(バス車掌)、君島(会社事務員)、宮崎(教員)、原(元銀行事務員)、石井(会社事務員)、田村(工事事務員)、川口(元市役所事務員)、吉水(タイピスト)

本社側へ神近・加藤

46—58

一頁読物

使ふ人の立場から(2)

婦人雑誌総評

女性相談欄寸評(4)

職業婦人コント

美しき人(※目次「美しい人」)

勤労の束縛

家出

悪戯

婦人労働者に対する男子労働者

森三千代氏——彼女のマヂックテーブル——(※印象

記)

文芸時評

特権と俗物(※文芸評論)

新劇を強めるために(※演劇評論)

最近の音楽界(※音楽時評)

新響のヘルシンファンスを聴く

映画界便り

神楽坂を上る(※詩)(6)

最近の映画について(※映画時評)

秋の映画紹介*

日本映画の反省(※映画評論)

連載翻訳小説(※第4回)

カブナウリの復讐

秋山みつ子(3)

馬場 幸子 62 | 67

泉田 律子 62 | 63

石原 清子 63 | 65

小田 初枝 65 | 67

水町 葉子 68 | 70

67 | 70

生田 花世

71

福田 晴子(5) 76 | 72

永瀬 清子 80 | 76

舟橋 聖一 81 | 82

三好 十郎 83 | 85

吉田たか子 86 | 88

89

浅井 花子 90 | 91

村山 壽子 92 | 94

藤井田鶴子 95 | 97

栗原 章子 98 | 99

ヘレーナ・ホピンスカ作(7)

100 | 115

長篇小説

田舎者(※第10回)

短歌

鉢の浜木綿

道八の水差

不信なる人に寄す

小諸懐古園(藤村の詩碑の前に立ちて)

白粉草

夏祭の夜

投稿作品批評(8)

美術界だより

投稿短歌

紙面解放のお知らせ*

投稿詩(9)

職業婦人コント

前夜

灼熱の職場から

密行

梨

お奈於

創作(※小説)

誤算

芙蓉(10)

九、十月の活躍*

婦人文芸後援藤原義江独唱会のお知らせ*

松田 解子 116 | 127

川島 園子

丹沢 豊子

白石 賀子

岡田 弘子

八木沢 君子

西村 愛子

130 | 131

鈴木 綾子

132 | 133

134 | 138

白木 幸子

140 | 141

白石 きく

140 | 141

高木きよ子

武島たま子

142 | 143

錦戸磨瑣子

144 | 149

大谷 藤子

150 | 178

180 | 179

(加藤)(光成)(神近)

小田 初枝 180
181 | 182
182

〈注〉

- (1) 末尾に「——三五・八・二八」の日付あり。
- (2) 南寛(ブラジル珈琲販売宣伝本部)、平林辰(常磐生命)、富士勝弥(大阪ビル)の三名が職業婦人に関するコメントを寄せている。
- (3) 本文署名上に「北海道」と記載。
- (4) 末尾に「八・二五」とある。
- (5) 福田担当の時評の末尾に「八・二九」の記載あり。
- (6) 末尾に「一九三五年八月七日」の日付あり。
- (7) 目次記載「ボビンスカ作」。
- (8) 投稿作品のなかには大原富枝の「まきの結婚」という作もみられる。
- (9) 138頁に選評あり。
- (10) 末尾に「一九三五・五・三」の日付あり。
- (11) 目次記載「利根川ゆり」。尚、作の末尾には「利根川さんは、前に野辺ユリといふ名で作品を発表された事がありました。」という文がある。

第二巻十一号 新しい家庭への希望号

一九三五(昭10)年十一月一日発行

巻頭言

ソヴェートに於ける結婚法と家族〈※評論〉(1)

神近 市子 7
石井 友幸 8 | 11

「偶然文学論」の迷妄性〈※評論〉、目次「偶然文学論」

の迷妄性

創作問題に關聯して——大谷藤子氏に——〈※感想〉(2)

虐待されてゐる詩人〈※文芸時評〉

社会時評

窪川夫妻離婚問題について

若き人々の所感

家庭、理想

中間層と理想の家庭

その微かなあくがれ

空間〈※小品〉

理想の家庭(おかみさんの立場から)

ビジネス・ウイメンと結核病〈※感想〉

颯風〈※感想〉(3)

秋の暮色〈※詩〉

傷心*

青年労働者*

絵画についての感想〈※美術時評〉

或る私唱の記録〈※ルポ、続篇〉(6)

フランスの電話交換手からの手紙(7)

古日記から

文芸時評

投稿作品批評*

紙面解放のお知らせ*

木寺 黎二 12 | 16

光成 秀子 17 | 21

遠地 輝武 22 | 25

狩野 弘子 26 | 29

永瀬 清子 30 | 32

石原 清子 33 | 35

中田 豊子 35 | 37

青山 留美 38 | 39

峯 弘子 40 | 42

富岡 紀子 30 | 32

八幡ミチ子(4) 32

竹内てるよ 36 | 37

近藤ふき子 40 | 42

近藤ふき子 40 | 42

滝口 修造(5) 43 | 47

青木 ゆき 48 | 68

マリイ・オジケ 69

竹内次郎 70 | 71

横山美智子 70 | 71

福田 晴子(8) 75 | 72

石浜 秀子(9) 79 | 80

79 | 80

75 | 72

70 | 71

79 | 80

「作品について」音楽時評
連載翻訳小説〈※第5回〉

カブナウリの復讐

レーナ・ポピンスカ作⁽¹⁰⁾

峯 弘子訳

83 | 102

共和治下の現代ポルトガル婦人〈※紹介〉

笠間 杲雄

103 | 108

投稿詩⁽¹¹⁾

109 | 113

投稿短歌⁽¹²⁾

114 | 115

レコードを聴いて〈※感想〉

村山 寿子

116 | 117

加藤博士の実験(プラウダ紙所載)〈※紹介、目次「ソ
ヴェートに於て加藤博士の実験」

マリエッタ・シャギニヤン

短歌

120 | 121

山梔

杉田 鶴子

夫の習作を

山田百合子

紅葉

吉川 綾子

裁判所見学

笹森 寿子

石田三成を見て〈※感想〉

横山美智子

第六回読者茶話会の予告*

125 | 122

甲府に於ける講演会〈※目次「甲府講演の記」

神近 市子

126 | 127

長岡市講演会の記

平林 英子

高田講演会の記

森 三千代

127 | 128

長篇小説

田舎者〈※第11回〉⁽¹³⁾

松田 解子

129 | 143

福田時子さん〈※印象記、目次「福田晴子氏」

創作〈※小説〉

解放⁽¹⁴⁾

舗道の上⁽¹⁵⁾

山内せい子 145 | 154
小坂たき子 155 | 169

富本 一枝 144

編集後記〈※目次「編集室だより」

(神近) (光成) (真気) (加藤)

170

〔注〕

(1) 末尾に「モスコ・ニュースによる」と記載。

(2) はじめに筆者の前書きがある。

(3) 末尾に「八、二九」とある。

(4) 目次記載「八幡三千子」。

(5) 目次記載「滝口修道」。

(6) 末尾に「一九三五・九・二六」の日付あり。尚、目次には創

作欄の中に記されていることに関して、「青木さんは本誌九月号に、この前篇を発表して非常に大きなショックを与へた。前篇の時もさう思つたのだが、これは創作欄へ入れても決しておかしくないと思ふ。しかし筆者は創作として書いたつもりでないやうであるからお断りする。九月号とあはせて読まれるやうに。」という編集部による付記がある。

(7) 「これは或る日本の婦人に宛ててきたフランスの電話交換手のエスベラント通信を訳したものです。」の前書きあり。

(8) 福田担当の時評の末尾に「九、三〇」とある。

(9) 石浜担当の時評の末尾には「一九三五・九・二七」の日付あり。

(10) 目次記載「ポピンスカ作」。

(11) 112・113頁に選評あり。

(12) 「くゆる秋」と題された大原富枝の短歌三首もみえる。

(13) 「附記。——この作、予定通りだと十二月で完結する筈でしたが、作品の方は長くなり、雑誌としての枚数の都合はあるこ

とで到底もう一月では完結しませんので、こゝらで休載させて頂きます。いづれ完結だけはさせたいと願つてゐます、と末尾にある。尚、続篇は「人民文庫」第一巻第八号（昭11・10）に「転換期の一節」という題で掲載されている。

(14) 末尾に「一九三五・一〇・一」の日付あり。

(15) 末尾に「一九三四年七月」と記載。

第二巻第十二号 十二月号

一九三五（昭10）年十二月一日発行

巻頭言

創作〈※小説〉

女狐

遺族

彼岸の人

平林英子氏〈※印象記〉

婚姻問題を主として婦人と道德の問題〈※婦人時評〉⁽¹⁾

新劇徒然草〈※演劇評論〉⁽²⁾

迷へるノート——読書のこと——〈※随筆〉

社会時評

人民の無権利Ⅱ市電女子車掌

子守の家出〈※時事解説、目次「子供の家出」〉⁽³⁾

神近 市子	7
青木 ゆき	8 29
松本きみ子	30 56
美川 きよ	57 65
光成 秀子	66
巖木 勝	67 75
三井 滋夫	76 81
林 房雄	82 83
狩野 弘子	84 88
中野 鈴子	93 95

連載翻訳小説〈※第6回〉

カブナウリの復讐

スナップシヨット女流作家と家庭⁽⁵⁾

本年度作品の回顧

誠実さ⁽⁶⁾

「夜間飛行」その他

新人のものに⁽⁷⁾

今年よんだ作品より⁽⁸⁾

読んで感心したもの

ソーニヤ・コヴァレフスカヤ

投稿作品批評

大阪新劇界近況

婦人文芸関西講演〈※目次「関西講演会記」〉

名古屋を中心に*

大阪の記*

神戸講演*

病中日記抄

女流脚色家を望む——「人生劇場」脚色気焰——〈※

感想〉

期待外れの人生劇場

「こがらし」を演出して〈※感想〉

新しい映画の紹介

福岡支部通信

文芸時評

喜田 麗子	111 113
峯 弘子 ⁽⁴⁾	96 100
藤島 まき	114 115
小山いと子	115 117
日下 典子	117 118
高見沢直江	118 119
仲町 貞子	120
平林 英子	120 121
沢田 宣子	123 122
松田 解子	124 127
神近 市子	127 128
生田 花世	128 131
山本 安英	132 133
村田 修子	134 136
K	137
岡田八千代	138 139
藤井田鶴子	140 142
香月 登美	143
福田 晴子	144
石浜 秀子 ⁽⁹⁾	148 151

投稿詩

紙面解放のお知らせ*

投稿短歌⁽⁴⁾

大阪支部通信

講演会の記

タンスマン作『トリプティーク』〈※感想〉

告知板*

編集後記〈※目次「編集室だより」〉

読者欄新設のお知らせ*⁽¹¹⁾

第八回読者茶話会のお知らせ*

152 | 157

158 | 159

162 | 163

166 | 166

163

165 | 166

166

(加藤)(真気)

〈注〉

(1) はじめに「序」として前書きが記されている。

(2) 末尾に「一九三五・一一・三」の日付あり。

(3) 末尾に「一九三五・十月」と記載。

(4) 目次記載「ボビンスカ作」。

(5) 松田解子、横山美智子、生田花世、宇野千代、神近市子についての短文。

(6) 末尾に「一九三五、一〇、三〇」の日付あり。

(7) 末尾に「一九三五、十月末」とある。

(8) 末尾に「昭和十年十月廿八日」の日付あり。

(9) 石浜担当の文の末尾には「一九三五・十一・二二」の日付あり。

(10) 159頁に以下の文あり。

「詩・短歌のこの頁を来月からもつとく増大しようと考えます。

そして出来るだけ皆さんの自由な頁にし、皆さんの生活から出るほんたうの声で埋めたいと思ひます。(中略)こちらでは皆さんの勉強の爲めに、専門の方に見ていただきまづい点には朱を入れていたゞくといふことにします。どこの雑誌にも見

られないすぐれたよい頁をつくり度いものです。それには皆さんの御活動を期待します。」

(11) 「あらゆる職場、家庭学校、街頭等に於ける生き／＼とした生活体験、本誌に対する希望要求等読者の頁にして開放いたします」の言葉がみられる。

第三巻第一号 新年号

一九三六(昭11)年一月一日発行

巻頭言

神近 市子

7

情操の表現としての文化〈※評論〉

長谷川如是閑

8 | 12

座談会

一九三六年の婦人に与ふ⁽¹⁾

13 | 35

平林たい子 窪川いね子⁽²⁾ 丸岡 秀子

松田 解子 片岡 鉄兵 岡 邦雄

村山 知義 神近 市子 加藤 敏子*

真気 信子*

社会時評⁽³⁾

神近 市子

36 | 40

紙面解放のお知らせ*

丸岡さん〈※印象記、目次記載「丸岡秀子さん」〉

平林たい子

41

平林たい子出版記念会「哀しき愛情」*

42

林芙美子氏出版記念会「牡蠣」*

42

職業紹介所から——職業婦人の一面——〈※社会時評、

副題目次記載「職業婦人の或る一面」

文芸と精神分析(※文芸時評)⁽⁴⁾

ヨハンナ・ボンゲル夫人(※人物伝)⁽⁵⁾

詩における散文的性格(※文芸評論)

職業婦人の主張

職業婦人論——奥むめお氏の「働く婦人のため」に

就いて——*⁽⁶⁾

職業婦人と結婚*

婦人文芸観劇会から会員募集のお知らせ*

趣味としての音楽(※随筆)

『婦人文芸』観劇会のお知らせ*

無産者の託児所を語る(※ルポ)⁽⁷⁾

ブックレビュー*

楨本楠郎氏著「仔猫の裁判」を読む

深尾須磨子著「丹波の牧歌」

福岡支部通信*⁽⁸⁾

新年を迎へての抱負

果敢ない抱負

我が体得を基調に⁽⁹⁾

小説らしくない小説を

「今年の抱負」

新しい熱意で⁽¹⁰⁾

前進への希望⁽¹¹⁾

三六年こそは肚を据えて

あゝもあつたら、こゝもあつたら

箕浦 多一 43—46

木村 廉吉 47—49

式場隆三郎 50—57

上野 壮夫 58—61

八幡美知子 62—65

矢部 時子 65—67

藍野 照子 68—71

鈴木とく子 72—76

松田 解子 72—73

富本 一枝 73—75

平林 英子 78—79

日下 典子 79—80

小坂たき子 80—81

小山いと子 81—83

藤島 まき 82—83

須賀 瑞枝 83—84

吉尾なつ子⁽¹²⁾ 83—84

仲町 貞子 84—85

新年を迎へての抱負

『チャタリイ夫人』を読む(※感想)⁽¹³⁾

支那に咲いた『やまと撫子』(※評論)

詩

黒い賀状

山河

古木の薔薇

熱ある花

檻にゐる鷲

荒野*

イワンの櫓

奥利根の感傷(※紀行)

新しい映画の紹介

ソヴェート舞踊について(※翻訳演劇評論)

一九三六年職業婦人の抱負

開拓者としての意図を持ちつゝ

希望と実践への意欲

先づ身近から

年頭に際して

『未完成』への希望⁽¹⁴⁾

誌友のたより*

文芸時評

問題二対

藍川 陽子 85

福田 晴子 86—90

神崎 清 92—95

深尾須磨子 96—97

後藤 郁子 97—98

英 美子 98—100

沢木 隆子 100—101

露木 陽子 101—102

露木 陽子 101—102

竹内てるよ 102—104

泉田 律子 106—111

藤井田鶴子 112—114

エス・ウォルコフ 116—119

広島与志訳

村山 道子 120—123

池上 ゆき 123—125

白石 きく 125—126

遠山 サチ 126—128

圭 子 128—129

松田 解子 130—131

「私生児」その他

「幹部」・「徒勞」

「批判精神」の戯れ

新劇評*

創作座を観る

断層(不安の人々)⁽¹⁵⁾

女流新人三十六歌撰集⁽¹⁶⁾

連載翻訳小説(※第7回)

カブナウリの復讐

投稿詩⁽¹⁸⁾

投稿短歌

創作(※小説)

闘魚

脂粉

老純潔

附録

婦人文芸編集部編纂現代女流文化人名簿——昭和十

一年一月——⁽¹⁹⁾

新年のお慶び申上げます(※編集部からのあいさつ)*⁽²⁰⁾

十二月の座談会(※報告)*

第九回読者茶話会のお知らせ*

告知板*

編集室便り

(神近)(加藤)(真気)

203—205

204

203

203

202

197—200

生田 花世

186—196

辻村もと子

172—185

森 三千代

158—171

156—157

152—155

ヘレーナ・ポピンスカ作⁽¹⁷⁾
峯 弘子訳

142—150

136—140

135—135

光成 秀子

132—133

石浜 秀子

132

福田 晴子

131—132

〔注〕

(1) 「職業婦人と幸福?」、共稼の問題、妻君のレベル、男性の我儘、「赤い恋」の終末?、新しい結婚の形態、所謂の偽宗教、職業婦人の中性化、一九三六年の婦人に与ふ」の各小題がついている。

(2) 目次記載「窪川稲子」。

(3) 「一、ドイツの労働働人はどうなつたか 二、他人の事には口を出すまい 三、英雄になつた達摩蔵相 四、負星のお役人 五、科学は前進する」の小題あり。

(4) はじめに「文人ならざるものが「文芸と精神分析」と云ふ題目の下に思ひつくまゝを」という前書きがある。

(5) 「今度本誌に発表したのは、「テオの手紙」の中から抜いて書き改めたものである」の文のある附記が末尾にある。

(6) 末尾に「一〇、一一、二九」の日付あり。

(7) 末尾に「一九三五・一一・二五」の日付あり。

(8) 末尾に(小田)のサインあり。

(9) 末尾に「一九三五、一一、二八」の日付あり。

(10) 末尾に「一九三五・一一」とある。

(11) 末尾に「十一月二十四日」の日付あり。

(12) 目次記載「吉尾なつ」。

(13) 末尾に「一九三五・一一・八」の日付あり。

(14) 末尾に「一九三五、一一、江巢」とある。

(15) 末尾に(K)のサインあり。

(16) 「蘭秋」日比野友子、「夫と子」三苦京子、「子の旅」川口千香枝、「不眠の夜々」久保田初瀬、「栗」清水千代、「晩秋」高桑菊子、「みごもる母」大貫迪子、「月光」進藤恵美子、「冬」米倉久子、「病みて」山東須磨、「高原」山川柳子、「手術」小泉よし江、「山にて」山田百合子、「かり住みの家」竹内茂登子、「帰郷」松井水枝、「秋」阿部千鶴子、「武州深大寺にて」羽田野繁子、「街住み」磯江朝子、「野分」新居滋子、「冬の室」白

第三卷第二号 二月号

一九三六(昭11)年二月一日発行

石賀子、「郊外新居」福田たの子、「霧」萩倉ちさゑ、「秋野」甲斐水棹、「哀愁」望月れい子、「山霧」井上たか子、「霖雨」岸田千代子、「秋山」大野みどり、「おほ母」林マサミ、「幼き子」藤原染子、「独居」小野克子、「茅倉屋根」安達佐貴子、「女性」嘉納とわ、「雪二題」白井尚子、「化石」斉藤史、「願ひ」太田静子、「夢」片山恵美子

(17) 目次記載「ボビンスカ作」。
155頁に選評あり。

(19) 女流文化人の現住所、略歴、業績などが記されているが、掲載されている女流文化人をあげておく。ア行→市川房枝、板恒直子、今井邦子、宇野千代、円地文子、葵イツ子、石浜秀子、泉田律子、大谷藤子、大田洋子、岡田禎子、岡本かの子、尾崎孝子、カ行→河崎なつ、神近市子、窪川いね子、小寺菊子、狩野弘子、川瀬美子、清瀬いづみ、北川千代、黒田米子、日下典子、小池みどり、後藤郁子、古賀英子、小坂たき子、サ行→ささき・ふさ、須賀瑞枝、タ行→中条百合子、竹内てるよ、辻村もと子、ナ行→野上弥生子、永瀬清子、中島幸子、吉尾なつ、永井街子、ハ行→長谷川かな女、長谷川時雨、深尾須磨子、平林英子、平林たい子、林芙美子、福田晴子、英美子、藤島まき、藤井田鶴子、マ行→美川きよ、松田解子、松村みね子、丸岡秀子、光成秀子、村田修子、森三千代、ヤ行→山川菊栄、矢田津世子、柳原燁子、横山美智子、与謝野晶子、吉屋信子、八木さわ子、吉田たか子、四家文子、ワ行→若山喜志子

(20) 「婦人文芸同人」として、神近市子、加藤敏子、真気信子、光成秀子、須賀瑞枝の五人の名前が記されている。

表紙装幀

巻頭言

母子保護の一視角へ※社会時評、目次「母子保護法の

一視角へ

現代小説と家族問題へ※文芸時評

議会運動への再認識へ※社会時評

寒霜へ※短歌

時事解説

世界の動き

ささらぎ集へ※短歌

所有観念否定の文学——ゴールワージーの大作「フオア

サイト家物語」を読むへ※書評(1)

転換期と文学のモラリテイへ※評論、目次「転換期の

文学とモラリテイ」——若き職業婦人における——

信越線へ※短歌

随筆・感想

無題寸録(2)

マダム・ラ・コンテス

都会を離れて(3)

村山 知義	7
神近 市子	7
丸岡 秀子	8 16
玉城 肇	18 23
石原 清子	24 26
若山喜志子	27
新島 繁	28 32
今井 邦子	33
福田 晴子	34 39
光成 秀子	40 44
水町 京子	45
徳永 直	46 49
熊代 とよ	49 53
杉内 いち	53 57

婦人覚醒運動の先覚者遠藤清子女史の建墓〈※目次

「遠藤清子女史の建碑」

英米ニュース

生計審査の功罪〈※目次「生活審査の功罪」

Gメンの効果

文芸時評

倫理性と科学と実践

読んだものの中から

名著の一節

ドストエフスキー罪と罰

山上臣憶良貧窮問答(万葉集)

古賀英子さんの印象

早春の白馬岳〈※随筆〉⁽⁴⁾

連載翻訳小説〈※第8回〉

カブナウリの復讐

日本映画紹介

生活の記録

マイカ工場から

『ダルマ落し』

奥様の美德

女看守

大阪支部目ざましき活躍——中村屋開店に際して——

大塚 君子
榎木不二夫

46
48—53
54—57

日下 典子
石浜 秀子

58
58—59

藤森成吉推薦
井伏鱒二推薦

60—62
63

松村 珊子
中村 テル⁽⁵⁾

65
66—68

ヘレーナ・ボビンスカ作⁽⁶⁾
峯 弘子訳

70—81
82

小川ひで代
徳久 歌子

84—86
86—88

名取たづ子
成田千代子

88—89
90—94

Y M
95—96

96

紙面解放のお知らせ*

支部をつくる方々へ*

投稿詩

投稿短歌

誌友のたより〈※目次「誌友のページ」

告知板*

投稿作品批評⁽⁷⁾

新しい映画の紹介

読者茶話会報告*

創作〈※小説〉

白日の書(一部)⁽⁸⁾

生えた頤ひげ

人間の巢

現代女流文化人名簿*⁽¹⁰⁾

歌集「短檠」をよむ*

第九回読者茶話会の予告*

編集後記〈※目次「編集室だより」

97

98—103

104—105

106

106

107

108—109

109

110—135

110—135

136—146

147—162

163

163

163

164

〔注〕

(1) 末尾に「一九三五・一二・二七」の日付あり。

(2) 末尾に「一九三五・一二」とある。

(3) 末尾に「一九三五・一二」とある。

(4) 末尾に「十一月八日」の日付あり。

(5) 目次記載「中村てる」。

(6) 目次記載「ボビンスカ作」。

(7) 次号(第三卷第三号) 創作欄掲載の三枝正世作「紅皿(推薦作)」の評もある。

(神近) (真気) (伊藤)

(8) 「附記」最初これは全部(約百五十枚)発表するつもりでしたが、少し長くなりますしいろいろな点で別々に発表した方がいいと思ひましたので、三部にわけることになりました。一部一部短篇として読んで下さつても、まとめて中篇として読んで下さつても、どちらでも結構です。」と末尾にあり。

(9) 目次記載「葵いつ子」。

(10) 先月号(第三卷第一号)の「名簿」に追加。(追加)平塚らいてう、生田花世、山本安英、富本一枝)

第三卷第三号 三月号

一九三六(昭11)年三月一日発行

表紙装幀

巻頭言

勤労婦人と宗教(※評論)⁽¹⁾

婦人と政治的自覚(※社会時評)

文学的な問題の中から(※文芸時評)

日本婦人運動の回顧(※第1回)——明治初期の婦人

先覚者を語る——

ゲーテと女性(※評論)

社会時評

鐘紡の『六時間労働制』、断種法について

彩管徒然草(※随筆)

女の絵描き

素描

村山 知義	7
神近 市子	8 18
巖木 勝	20 21
山川 菊栄	22 25
神近 市子	26 34
柳田 泉	35 37
武田 忠哉	38 45
狩野 弘子	46 47
峰村リツ子	48 50
荒井 彩子	

逃げる瞬間
冬のある一日

空想の室室

時事解説

世界の動き⁽²⁾

婦人の先覚者(※列伝、第1回)

脚本いとし(※感想)

随筆

娘の結婚

身辺雑記

ブツクレビウ

「辛抱づよい者へ」に就いて*

山本安英随筆集「素顔」*

詩

吹雪の日に

日だまり

春宵

ニーナの死

夕夜

小坂たき子さん(※印象記)

文芸時評

女性の反逆——丹羽氏の「この絆」その他に就て——⁽³⁾

心細いロマンティシズム

新しい映画の紹介

佐川 敏子	50 54
桜井 浜江	54 55
三岸 節子	55 58
新島 繁	60 63
井部 愛子	64 71
岡田 禎子	72 75
藤原 あき	76 78
四家 文子	79 80
永瀬 清子	76 79
K 子	79 80
中田 信子	82 83
沢 ゆき子	83 85
館 美保子	85
浅井 花子	86 87
木村 好子	87 88
平林 英子	87 89
福田 晴子	90 93
石浜 秀子	93 94
藤井田 鶴子	96 97

第一回京京支部例会の予告*⁽⁴⁾

主張・感想

「肉親離反批判」の盲目

派出看護婦に呼びかけて

職場にある友へ

京都支部だより〈※支部通信〉⁽⁶⁾

特別募集のお知らせ*⁽⁷⁾

投稿作品評⁽⁸⁾

投稿詩⁽⁹⁾

投稿短歌

紙面解放のお知らせ*

新劇評

新築地の「渡辺華山」*

三好十郎と「妻恋行」*

新築地劇団と「ファウスト」*

日本映画紹介

支部通信

名古屋支部〈※目次「名古屋支部のたより」〉

前橋市婦人文芸講演会〈※目次「前橋講演会の記」〉

東京支部結成さる——第十回読者茶話会を機として——

前橋支部発表式

誌友のたより〈※目次「誌友のページ」〉

創作〈※小説〉

婿を探しに来た女

紅皿〈※推選〉

97

八幡ミチ子⁽⁵⁾ 98 | 101

神代不二子 101 | 103

西村 綾子 103 | 104

104

104

105

106 | 114

115 | 116

117

118 | 119

村田 修子

石浜 秀子

村田 修子

120 | 121

122

123

124

124

124

125

128 | 142

143 | 158

142

告知板*

東京支部会員募集*

編集室だより

(真気) (伊藤) (加藤)

142

159 | 160

〈注〉

(1) 末尾に附記、並びに「一九三六・一」の記載あり。

(2) 末尾に追記として前号の誤りを示している。

(3) 末尾に「一九三六・二・一」の日付あり。

(4) 「神近市子氏、松田解子氏、浅井花子氏御出席」と書かれて

いる。

(5) 目次記載「八幡みち子」。

(6) 末尾に(山口)のサインあり。

(7) 題目は「一、働く婦人の生活記録 二、働く婦人の主張・感想」。

(8) 119頁にも分載。

(9) 113頁に深尾須磨子「選評に代へて」、114頁には後藤郁子「選後に」を掲載。

第三巻第四号 現代女性進出特集号

一九三六(昭11)年四月一日発行

表紙装幀

村山 知義

巻頭言

神近 市子

農村婦人の地位と現状〈※婦人社会時評〉⁽¹⁾

青木 恵一

日本職業婦人の進出・その地位〈※婦人社会時評〉

石原 清子

日本婦人運動の回顧〈※第2回〉——明治中期——

15 | 23

15 | 23

恋愛と自由——菊地寛氏の「恋愛と結婚の書」

柳田 泉 24 | 31

——〈※評論〉⁽²⁾

八幡美知子 32 | 37

紙面解放のお知らせ*

井部 愛子 38 | 45

婦人の先覚者〈※列伝、第2回〉

新島 繁 46 | 49

世界の動き〈※時事解説〉⁽³⁾

永瀬 清子 50

詩

早春

中野 鈴子 51

断章⁽⁴⁾

竹内てるよ 52 | 53

わが友よ

狩野 弘子 54 | 58

社会時評

婦人は何故就職するか?、授産場の表彰、無産党進

出の意義

ヨコちやんへの手紙〈※横田文子への手紙〉

小坂たき子 57

ラスキン女性観の一部〈※評論〉

御木本隆三 60 | 61

秘密〈※詩〉*

ハイネ 60 | 61

文芸時評

社会的圧迫感の有無⁽⁵⁾

福田 晴子 62 | 66

流れある文学⁽⁶⁾

小坂たき子 66 | 68

寒夜〈※短歌〉

丹沢 豊子 69

戯曲時評

戯曲は詩ではない

円地 文子 70 | 73

マンガの頁

深谷 亮 74

農村女子青年団大会

小原 栄治

病的鏡・妻も淫売婦

齊々哈爾の無駄話

某婦人会学校見学

森熊 猛 75

結婚打算時代

武田麟太郎 76 | 77

私の好きな女〈※随筆〉⁽⁷⁾

職業第一線から

井上まつ子⁽⁸⁾ 78 | 80

沢庵の味

転部 清子⁽¹⁰⁾ 80 | 82

映画宣伝といふ仕事に就いて⁽⁹⁾

川瀬 美子⁽¹¹⁾ 82 | 84

この頃の日記から

小野 ユリ⁽¹²⁾ 84 | 86

四十人の女世帯

杉田千代乃 87 | 88

アマチュア・ラヂオをはじめるまで

水町 葉子⁽¹³⁾ 89 | 90

甦生の希望に燃えて

石本 藤子⁽¹⁴⁾ 91 | 92

双葉を大樹に

栗原 章子 94 | 95

映画時評

高田せい子 96 | 98

脚光のかげに

原 泉子 98 | 100

自惚れが勉強させる

山岸しづ江 101 | 102

手紙の代りに⁽¹⁵⁾

日高ゆりゑ 102 | 104

舞台人としての喜び

藤井田鶴子 106 | 107

小さい部屋で

木村 恒子 108 | 111

新しい映画の紹介

加藤小枝子 111 | 114

働く婦人〈※生活記録〉

奥田 貞子 114 | 117

児童院栄養室から

宮本 三枝 117 | 119

デパートから

影山久美子 108 | 116

紡績工場の一隅にて〈※目次「紡績工場の一隅から」〉

軍需品工場の日常

齊々哈爾の無駄話

影山久美子 108 | 116

東の女・西の女¹⁶
三月号を手にして*
新島 繁
山岸しづ江
116 | 119

新築地劇団『野鴨』を観て
S
M
120

新協劇団「マンハイム教授」を観て
121 | 123

支部のページ¹⁷
誌友のたより¹⁸
ノクターンを語る座談会*
126 | 127

神近 市子
小池みどり
栗原 章子
124 | 125

加藤 敏子
村田 修子
真気 信子

創作へ※小説
子飼ひ¹⁹
藤島 まき
1 | 22

白日の書(二部)
横田 文子
23 | 52

復讐の倫理
松本きみ子
53 | 67

東京支部例会(読者茶話会)の予告*、告知板*
(神近)(真気)(伊藤)
68 | 69

編集室だより
編集室だより

〈注〉
(1) 末尾に「身辺多事のため充分研究できないことを読者におわ
びする」とある。

(2) 末尾に「一九三六・二・二九」の日付あり。
(3) 末尾に「三月八日」の日付あり。
(4) 末尾に「一九三五・二月」とある。
(5) 末尾に「一九三六・三」とある。
(6) 末尾に「三・五」と記載。
(7) 末尾に「三月五日」の日付あり。

(8) 目次記載は「井上まつ」。尚、本文署名上には「婦人記者」とある。

(9) 末尾に「一九三六・三・四・記」とある。
(10) 本文署名上に「三映社宣伝部長」と記載。

(11) 本文署名上に「桃谷順天館奉仕部」とある。
(12) 本文署名上に「東京マネキンクラブ」と記載。尚、目次署名は「小野ゆり」。

(13) 署名上に「洋裁師」とある。
(14) 署名上に「双葉速記会」とある。

(15) 末尾に「三月五日」の日付あり。
(16) 末尾に「京都太秦発声スタヂオにて」と記載。

(17) 「本誌と歩調を合せて」東京支部、「希望と批評を」名古屋支部、「婦人の問題をも取り上げて」前橋支部、「四月にはピクニックを」京都支部

(18) 大谷藤子が「旅行先から」、和泉あきが「兵庫から」なる文を寄せている。

(19) 署名の下に(P・C・L宣伝部)と記載。
(20) 署名の下に(東宝映画部)と記載。
(21) 末尾に「一九三六・二・二三」の日付あり。

第三巻第五号 五月号

一九三六(昭11)年五月一日発行

表紙装幀

巻頭言

日本婦人運動の回顧(※第3回)

婦人と文化運動——神田・Y・W・C・Aに於ける

村山 知義

神近 市子

講演——(1)

婦人問題講座〈※第1回〉——母権時代——(2)	神近 市子	8 17
玉城 肇	18 28	
我が国躍進輸出産業を荷負ふ婦人労働者〈※婦人社会時評〉		

世界の動き〈※時事解説〉	石原 清子	30 39
新島 繁	40 44	
狩野 弘子	45 47	

社会時評		
女学校の外国語教授、無産花嫁学校		
歌舞伎劇の中から——娘と妻と——〈※演劇評論〉	長谷川時雨	48 51
井部 愛子	52 59	
松田 解子	60 62	

婦人の先覚者〈※列伝、第3回〉	窪川 稲子	63
五月の思出、希望〈※随筆〉	生田 花世	64 70
印象記		

出来上つた人藤島まさ氏		
土と人との諧調——九州旅行——〈※随筆〉		
推薦する名著の一節	松田 解子	64 65
ゴリキー作「読者」	武田麟太郎	65 66
西鶴文集「西鶴置土産」(3)	福田 晴子	69 70
宇野浩二「枯木のある風景」		

投稿作品批評		
文芸時評		
やゝ梓外的に(4)	永瀬 清子	71 74
時代の悩みを悩む激しい気魄の不足	石浜 秀子	74 76
働く婦人〈※生活記録〉		

小さな勝利	吉村 文子	77 78
女事務員のこと	小堀 まさ	79 80

研究室の片隅	酒井 弘子	80 81
食堂スケッチ	藤井 和子	81 82
主張・感想		
派出看護婦の立場から	神代不二子	82 84
妻となり母となりても	池上 ゆき(5)	84 86
製糸女工の便り	山田 アイ	86 87

新劇評		
「夜明け前」を観て——主として合評会で問題になつたこと——		88
「春愁記」の感想		89
支部のページ(6)		90 92
告知板*		92

投稿作品批評	平林たい子	93
誌友のたより(7)	松田 解子	94 95
東京支部読者茶話会の予告*		95
投稿短歌		
投稿詩(8)		
創作〈※小説〉		
白日の書(三部)の一歩み(9)	横田 文子	106 124
	利根川ユリ	125 151

編集後記〈※目次「編集室だより」〉		
(神近)(真気)(伊藤)		152

〈注〉

(1) 「この草稿は、大変匆忙の間に座談会にお話したものを連記にとつて下すつた方があつたので、編集部のお勧めでこゝに載せ

て見たものです。」の一文を含む付記が末尾にある。

(2) 末尾に「執筆者附記」がある。

(3) 66頁に武田による作品の解説がある。

(4) 末尾に「三月三十一日」の日付あり。

(5) 目次記載「池上ユキ」。

(6) 「松田解子氏を囲んで」東京支部、「批判と希望」京都支部、「上毛文学社誌友も混へて」前橋支部、「誕生第一信」門司支部、「三月号の批判」名古屋支部

(7) 「ブラジルからの便り」なる大石千代子の文もみえる。

(8) 103頁に「九篇の詩に就いて」松田解子、104頁には後藤郁子の「選評」がある。

(9) 末尾に「一九三六・二」とある。

第三卷第六号 六月号 一九三六(昭11)年六月一日発行

表紙装幀

巻頭言

グラフの頁へ※写真と短文

佐藤俊子氏を囲んで(1)、宇野千代さん・銀座を行く二人、
婦人運動ニュース、編集室の或る一日・武蔵野へハイキ
ング、新劇と舞踊

印象記

ロック・クライミングの女——日下典子氏のこと——

生田 花世

14

世界の婦人を訊く
ドイツ
ロシア
アメリカ

ドイツの職業婦人

革命前後のロシア婦人

アメリカの職業婦人

ソヴェートの婦人

日本婦人運動回顧(※第4回)

婦人と文化運動(承前)——神田・Y・W・C・A

に於ける講演——

婦人問題講座(※第2回)

恋愛と嫉妬の歴史(2)

時事解説

世界の動き

社会時評

教員の道德問題、道連心中について、有閑令嬢の就

職問題、婦人運動の新傾向は何か

婦人作家共通の問題(※目次「女流作家共通の問題」)

——「婦人文芸」最近の作品評——

日常経済の話

詩は復興してゐるか(※評論)

一新劇人への手紙(3)

歌舞伎劇の中から(前承)——娘と妻と——

(※演劇評論、続篇)

文芸時評

読者の立場と批評に耐える作品について

光成 秀子

82—83

鈴木 東民 15—22

黒田 乙吉 22—25

石本 静枝 25—30

馬場 秀夫 30—33

神近 市子 34—39

王城 肇 40—48

新島 繁 49—51

神近 市子 52—55

窪川 稲子 56—60

K・I・K 61—63

遠地 輝武 64—67

三好 十郎 70—73

長谷川時雨 74—81

文芸時評嫌厭の弁

『仕事と詩と友情』

『聖哲の言葉いろいろ』

いちけつと

今夏の婦人服

季節向自慢料理へ※目次「初夏の自慢料理」

大村寿司

うどの酢味噌

筍とコンニャクの白和へ

自慢料理三種

演劇時評へ※目次「新劇時評」

創作座とテアトルコメデー

新築地劇団⁽⁴⁾

知識階級職業紹介所訪問記へ※目次「職業紹介所訪問記」のみ

新しい映画の紹介

告知板へ※女流名家の近況*

結婚相談部訪問の記

誌友のたより⁽⁵⁾

京都読者会予告*

随筆

幼さな兄弟へ※目次「幼さな兄妹」

紙面解放のお知らせ*

投稿短歌

投稿詩⁽⁷⁾

日下 典子 84 | 85

須賀 瑞枝 89 | 91

泉田 律子 91 | 93

86 | 90

神近 市子 91

深尾須磨子 91 | 92

丸岡 秀子 92

加藤 敏子 93

岡田八千代 94 | 95

加藤 敏子 95 | 96

河原よし子 98 | 99

藤井田鶴子 100 | 101

南 きた子 102 | 103

101

105

105

105

105

106 | 108

109

110 | 112

113 | 115

読者茶話会予告*

新しい女性の友情へ※随筆、目次「女性の友情」

女性の友情について

創作へ※小説

白日の書(三部)の二

限りなき道

編集後記へ※目次「編集室だより」

(神近) (真気) (伊藤) (徳田) 152 | 153

〔注〕

(1) 写真には長谷川時雨、富本一枝、岡田八千代、吉屋信子のか、宇野千代、美川きよ、森田たまらの姿もみえる。

(2) 48頁には「前号第一回講座中の誤植を訂正いたします」とあり、訂正が記載。

(3) 末尾に「一九三六年三月」とある。

(4) 末尾に「一九三六・五六」の日付あり。

(5) 横田文子、浅井花子、山本安英らの文あり。

(6) 目次記載「北原操子」。

(7) 114頁に後藤郁子の選評あり。

第三巻第七号 三週年記念特集号

一九三六(昭11)年七月一日発行

表紙装幀

グラフの頁へ※写真と短文

夏川 八郎

林芙美子氏・深尾須磨子氏⁽¹⁾、松田解子氏⁽²⁾、エヂ

ス・ハウマルチン女史を囲んで⁽³⁾、モスコー日より、
生活の詩(楽譜)⁽⁴⁾、働く婦人のスナップ

巻頭言

神近 市子 15

中世武士社会に於ける女性の土地所有の一考察——日

本女性史エンサイクロペディア編纂会内研究会発表

——〈※研究論文〉

石本 静枝 16—31

婦人問題講座〈※第3回〉——離婚と姦通の歴史——

玉城 肇 32—41

モスクワに於ける婦人の社会生活〈※紹介〉

除村 ヤエ⁽⁵⁾ 42—51

三週年記念に際して

婦人文芸三週年に寄す〈※目次「婦人文芸三週年を

迎へて〉

生田 花世 52—54

希望

松田 解子 54—55

活発な論争が欲しい

福田 晴子 55—56

怠け者の言葉

辻村もと子 56—57

詩

緑の枝

後藤 郁子 58—60

青葉のうた

竹内てるよ 60—61

赤外線写真

永瀬 清子 62—63

樹

露木 陽子 63—64

雨の降る北海へ——光郎に——

高橋たか子 64—65

社会時評

議会と増税について、フランス婦人の入閣

神近 市子 66—69

世界の動き〈※社会時評〉

新島 繁 70—72

短歌

世相・農村

梅雨

杉浦 翠子 73

雑詠

尾崎 孝子 74

夏の映画三ツ——映画通信——

北原 操 74

職業婦人は何故病気をするか?

藤井田鶴子 75—76

職業婦人向夏のツーピース〈※目次「職業婦人向夏の

太田 武夫 77

ツーピースの作り方〉

佐川 きん 78—81

壁評論

一少女の見識

新居 格 81

新人歌集初夏にうたふ〈※目次「初夏をうたふ新人十

九人集〉⁽⁶⁾

高浜 秀子 82—89

新協劇団「天佑丸を見て」〈※感想〉

高浜 秀子 88—89

毎週土曜日お出かけ下さい〈※編集部解放のお知らせ〉*

読んだものから〈※感想〉

平林 英子 90

『誘ひの日』について

小坂たき子

武田麟太郎氏の「井原西鶴」

永瀬 清子

最近印象に残った作品

光成 秀子

二つの作品

石浜 秀子

島木健作「第一義の道」

松本かづ子

童話

樺太ものがたり——幼なきひとへ——

松本かづ子 92—89

支部通信〈※目次「支部だより」〉⁽⁷⁾

京都支部読者茶話会、東京読者茶話会のお知らせ*

誌友のたより

100—101

投稿作品評*

平林たい子

村田 修子

102

投稿短歌

投稿詩(後藤郁子・深尾須磨子選)⁽⁸⁾

紙面解放のお知らせ*

ロマン主義の先駆者スタアル夫人(※紹介)⁽⁹⁾

職業婦人はサラリーをどう使ふか?(※調査報告)

創作(※小説)

私有財産制度

蝸牛

切花

春

新装——これは別離のための装ひである——⁽¹¹⁾

ブックレビュー

告知板
新島 繁
神近 市子

編集後記

(注)

(1) 傍に「動中の静」と題した深尾須磨子の短文あり。

(2) 傍に松田解子の「猫」なる短文あり。

(3) 写真にはハウマルチンを囲んで、生田花世、石本静枝、神近市子、窪川稲子らとともに渡辺とめ子の姿もみえる。

(4) 「小倉雪江氏作「生活」は本誌一月号投稿詩欄に掲載されたもので、「楽団創生」の吉田たか子氏が作品され…」の文がある。

(5) 本文署名上に「一九三六年四月モスクワにて」とある。

(6) 石橋しづ子、安藤佐貴子、山英子、大野みどり、初井しづ枝、下長根待子、西村愛子、石田美枝、小野克子、一ッ橋美江、鴨下荻江、牧野芳子、板垣喜久子、田所すが、寺田不二子、

103 | 104

105 | 109

高沖 陽造⁽¹⁰⁾ 110 | 114

116 | 123

葵 イツ子 124 | 137

大石千代子 139 | 161

日下 典子 162 | 170

富永 郁子 172 | 179

若林 つや⁽¹²⁾ 180 | 195

197 | 198

197 | 196

舟崎静枝、西方はくみ、山内静子、斉藤圭子の十九名の短歌を掲載。

(7) 東京あざみ会日より、京都愛読者茶話会日より

(8) 108・109頁に深尾と後藤の選評あり。尚、後藤の選評の末尾には「五月廿四日記」とある。

(9) 末尾に筆者の断り書きあり。

(10) 目次記載「高沖陽三」。

(11) 末尾に「一九三六・四・三〇」の日付あり。

(12) 目次記載「若林つや子」。

第三卷第八号 八月号

一九三六(昭11)年八月一日発行

表紙装幀

巻頭言

グラフの頁(※写真と短文)

涼風を追ふ、さがみ川にて(市子)、黒田米子さん

と山のキヤムプ(沢智子氏提供)、小寺菊子氏著「深夜の歌」出版記念会⁽¹⁾

婦人問題講座(※第4回)——売娼の歴史——⁽²⁾

文学に現れた性道德の新しき指標(※文芸時評)⁽³⁾

社会時評

壮丁の体格の低下、エチオピアの滅亡、東洋の情勢、

夏川 八郎

神近 市子

王城 肇

池田 寿夫

神近 市子

15 | 24

26 | 36

37 | 41

粉を挽く者の要求、義務教育延長案について、高群

女史の事業

婦人の先覚者〈※列伝、第4回〉——文芸復興時代——

世界の動き〈※社会時評〉

涼風を求めて〈※随筆〉

アイルランドの一日⁽⁵⁾

牛の鈴を鳴らして

フランスの夏

夏山

初夏の高原のひとつき

山で熊をみた話

職業婦人の悩みに答へる

女の労働の唄〈※随筆〉

現代の若き女性結婚をどう見るか〈※目次「結婚の理想現実」〉

理想現実

結婚の現実と理想

ホームなき結婚

結婚理想図

理想の再検討

理想はあくまで高く

新劇評・新築地「守銭奴」〈※目次「六月の新築地」〉

「守銭奴」

文芸時評「やどかり」其他〈※目次「文芸時評」のみ〉

毎週土曜日お出かけ下さい〈※編集部解放のお知らせ〉

せゝ*

日常経済の話〈※第2回〉——日本で言ふ統制経済——

夏の職場

夏の職場から

病院の配膳室におちて居た話〈※目次「病院の配膳室での話」〉

工場事務所での話

特売場から

告知板*

「働く婦人の生活記録——職場を中心にしたもの——」

募集のお知らせ*

誌友のたより〈※目次「誌友のページ」〉

支部のページ⁽⁷⁾

投稿短歌

投稿詩⁽⁸⁾

創作〈※小説〉

市助とアンゴラ兎

南海の記憶

紙面解放のお知らせ*

編集後記〈※目次「編集室だより」〉

95

96

97

K・I・K

小堀 まき

100 | 101

神代 翰子

101 | 103

日高 栄子

103 | 104

杉 とし江

104 | 106

106

108 | 109

110 | 112

113 | 114

115 | 118

三井 広子

119 | 155

真杉 静枝

156 | 165

165

166

(神近)(真気)(徳田)

〈注〉

(1) 写真の下には「記念会の夜」と題した小寺菊子の文あり。

- (2) 24頁に「七月号の主なる正誤表」あり。
 (3) 末尾に筆者の「附記」あり。
 (4) 末尾に筆者の「追記」あり。
 (5) 『岡本かの子全集』第十一巻（冬樹社、昭51）に所収。
 (6) 目次記載「藤原あき子」。
 (7) 「春以来の盛会ニユース」大阪支部、「毎回参加者が殖える」東京あざみ会、「本誌を中心に」名古屋支部、「ジイドをきく会を催す」京都あけぼの会。
 (8) 118頁には深尾須磨子、後藤郁子、竹内てるよらの選評あり。

第三卷第九号 九月号
 一九三六（昭11）年九月一日発行

表紙装幀

巻頭言

ソ聯邦の墮胎禁止法案（※社会時評）
 ソヴェートの新決定国民保健衛生政策（※社会時評）

婦人問題講座（※第5回）——妾の歴史——
 読者及誌友に告ぐ!!（※読者拡張のお願い）*
 社会時評

スペインの動乱、オリムピック招致、記事漏洩問題、
 名門に欺かれる

男性を語る座談会

深尾須磨子

生田

花世

林 美美子

34—43

夏川 八郎

神近 市子

河田 潔 8—11

石井 東一 12—19

王城 肇 20—28

神近 市子 29

30—33

窪川 稲子 井上まつ子* 石浜 秀子
 加藤 敏子 八幡美智子(1) 神近 市子
 真気 信子
 婦人の先覚者（※列伝、第5回）——フランス革命時
 代——

微笑——ある友に——（※詩）

恋愛の貧困（※随筆）(2)

動乱前夜のスペイン（※時事解説）(3) ルイズ・フィツンヤ(4)

秋・詩と随筆集

重い靴その他（※詩）(5)

写実的な夢（※随筆）

絵と子供（※随筆）

横浜（※随筆）

読んだものから*

愛情と真実さと——「市助とアンゴラ兎」を読む——

『南海の記憶』を読んで

職場から

三等郵便局から

T印刷所物語り

日常経済の話（※第3回）——私達はどんな税金を払

つてゐるか——

東京読者茶話会、京都読者茶話会のお知らせ、「働く

人の生活婦記録——職場を中心にしたもの——」募

集のお知らせ*

K・I・K 78—80

森沢 ふみ 76

上野 碧 74—75

窪川 稲子 72

日下 典子 73

英 美子 60—61

三岸 節子 62—67

峰村リツ子 67—69

日高ゆりえ(6) 69—71

井部 愛子 44—51

深尾須磨子 52—53

福田 晴子 54—56

57—59

80

新劇評

S · M 82 | 83

新協劇団「流れ」を観て、新築地劇団の喜劇週間⁽⁷⁾

映画と私の写真術

佐々木富美男 86 | 87

感想

学問についての考へ

中野 鈴子 88 | 91

女学校教育一の箴言へ※目次「女学校教育への一箴言」

言

橋本 公子 91 | 93

投稿作品評

窪川 稲子 大谷 藤子 94

誌友のたよりへ※目次「誌友のページ」⁽⁸⁾

支部のページ⁽⁹⁾

96 97

投稿短歌

98 | 99

創作

子賞ひへ※小説

樺山 千代 100 | 139

女へ※小説

松本きみ子 140 | 152

告知板*

153

編集後記へ※目次「編集室だより」

(神近) (真気) (森井) (杉) (徳田) 153 | 154

〈注〉

- (1) 目次記載「八幡美知子」。
- (2) 末尾に「八・一」の記載あり。
- (3) 「一人のイギリスのレポーター」がスペインに出かけ、農村を視察した際の記事である、ということが前書きに記されている。
- (4) 目次記載「フィッシャー」。
- (5) 「重い靴(貧しく不幸な母たちへ)」「花作るもの」の二篇。

(6) 目次記載「日高ゆりゑ」。

(7) 末部は80頁に分載。

(8) 「市助とアンゴラ兎」を読んで「新島繁、「病床より」永井街子などが掲載されている。

(9) 「酷暑の最中八月例会開かる」東京あざみ会、「限りなき道」の批初」名古屋支部、「講演会の記」京都あけぼの会。

第三卷第十号 十一月号

一九三六(昭11)年十一月一日発行

表紙装幀

米倉 寿仁

グラフの頁へ※写真と短文

7 | 12

雲仙の秋色(三浦寅吉氏撮影)、季節の触感、動乱のスペインと婦人たち——彼女等は武器を持つて起つ

た……、婦人界ニュース⁽¹⁾

扉絵

三岸 節子

月へ※随筆

森田 たま 16 | 18

新秋へ※短歌

尾崎 孝子 19

髪を編むへ※詩

竹内てるよ 20 | 21

飛礫へ※詩

方等みゆき 22 | 23

明治の女性を語る

『小公子』の若松賤子女史へ※目次「若松賤子女史

の思出」⁽²⁾

相馬 黒光 24 | 29

人種の偏見の消失(ソヴェートだより)

除村 ヤエ⁽³⁾ 30 | 36

時事批判座談会

37 | 47

富本 一枝 深尾須磨子 村岡 花子
 丸岡 秀子 平林たい子 石本 静枝
 神近 市子

日常経済の話

フランの平価切下と世界の関係へ※目次「フランの
 平価切下について」 K・I・K 48 | 50

毎週土曜日お出かけ下さいへ※編集部解放のお知らせ 49

洋装おぼえ帖へ※随筆 藤原 あき 51 | 53

秋より冬への婦人服の流行⁽⁴⁾ 51 | 53

婦人問題講座へ※第6回——人口制限の歴史——

王城 肇 54 | 64

奈良朝時代の家族制度へ※研究論文⁽⁵⁾ 岡本 賢次 65 | 74

一問一答——諸家にこんなことを尋ねてみました——*⁽⁶⁾ 74

働く婦人の手帖へ※生活記録

失はれた日曜 小村千代子 75 | 76

働く日の喜び⁽⁷⁾ 保科まさみ 76 | 77

世界の動きへ※社会時評 新島 繁 78 | 79

千円の低利資金で理想的小住宅をへ※目次「千円で理

想的小住宅を」 帆足 信枝 80 | 83

住宅としてのアパートの長所と短所へ※目次「住宅と

してのアパート」 山内みどり 83 | 85

一問一答へ※74頁のつづき⁽⁸⁾ 85

味覚の秋

珂琲のいれ方三種 袋 葉那子⁽⁹⁾ 86

簡単に風変りな白菜料理 宮沢ひさの 86 | 87

紅茶リセイロン・スタイルへ※目次「セイロン・ス

スタイルの紅茶」 河瀬秀太郎⁽¹⁰⁾ 87

眼を美しく保つ法 柳沢みつえ⁽¹¹⁾ 88 | 89

冷えだけで婦人病が起るか 太田 武夫⁽¹²⁾ 89

秋の映画紹介へ※目次「秋の封切映画」 90 | 92

新劇評

ゴリキイに捧げた二つの公演の感激へ※目次「二

つの公演の感激」のみ 石浜 秀子 94 | 95

丘の上(少女少女のために)へ※童話 96 | 100

投稿詩(編集部選) ビョルンソン 102 | 103

投稿短歌(深尾須磨子選)⁽¹³⁾ 104 | 106

東京読者茶話会のお知らせ*

談話室 107 | 108

小説

紅塵 日下 典子 110 | 129

嫁 三井 広子 130 | 146

女の心 辻村もと子 147 | 159

紙面解放のお知らせ 159

特別原稿募集のお知らせ⁽¹⁴⁾ 159

婦人文芸三週年記念婦人の文芸講演会のお知らせ*⁽¹⁵⁾ 161

編集後記⁽¹⁶⁾ (神近) 162

〔注〕

(1) 写真の下に「土突きに参加して」と題した「落合子」の短歌

五首あり。

(2) 筆者による前書きあり。

- (3) 本文署名上に「在モスクワ」とある。
- (4) 末尾に「(白木屋調べ)」と記載。
- (5) 末尾に「日本女性史エンサイクロペディア編纂会研究会発表」とある。
- (6) 問と回答者は以下のとおり。
 (新聞小説を書く態度)細田民樹、象徴主義の復活について
 (矢崎弾、作曲家としての覚悟)吉田たか子
 末尾に「一九三九、二四」の日付あり。
- (7) 以下(6)と同様。
- (8) (職業としての文学)新居格、銀座女の服装(小林秀恒、長篇か短篇か)青野季吉、レビユウの将来(伊馬鶴平
 本文署名上に「胡桃珈琲店主」と記載。
- (9) 本文署名上に「トリコロール本店主」と記載。
- (10) 本文署名上に「女医」と記載。
- (11) 本文署名上に「医学士」とある。
- (12) 106頁に深尾の選評あり。
- (13) 題は「一、隠れた女性の偉人を語る(どんな意味でも偉いと思はれる女性の履歴伝記逸話等) 二、女学生通信(わが校の誇り、女学生生活のエピソードその他)」。
- (14) 講演者として以下の九名が記されている。
 (宇野千代、平林たい子、窪川稲子、長谷川時雨、佐藤俊子、森三千代、英美子、深尾須磨子、神近市子)
- (15) 「十月号を休んだので、御心配をかけたと思ひます。久しく発行日の繰上げ、編集方針の立直を考へてゐたのですが、発行をつゞけ乍らでは仲々思ふやうに行きませんので、思切つて一ヶ月休刊といふ荒手段をとりました。」の一文あり。

第三卷十一号 十二月号

一九三六(昭11)年十二月一日発行

表紙装幀

米倉 寿仁

グラフの頁(※写真と短文)

7 | 10

収獲、婦人文芸講演会スナップ(撮影・湯川共夫氏)、

書齋訪問(1)、秋深し(東日写真部提供)

扉絵

甲斐 仁代

11

美しき富士——アーノルド・ファンタ博士に——(※)

随筆(2)

富本 一枝

12 | 17

白い花のたより(※詩)(3)

沢 ゆき子

18 | 19

車窓(※詩)

館 美保子

20

晩秋の詠五首(※短歌)

若山喜志子

21

新詠五人集(※短歌)

富田 住子

22 | 23

本多 順子 白妙三千代

富田 住子

武田 和重 楠 八重子

小説

慣性(4)

小山いと子

24 | 39

女ばか(5)

池田みち子

40 | 57

山里(※推薦)

飛弾 高子(6)

58 | 72

はるびんの印象(※イラスト)*

甲斐 仁代

73

婦人と文芸について(文学通信)(7)

秋田 雨雀

74 | 77

王朝女流作家更級日記の著者菅原孝標の女〈※人物伝〉

第1回

江東消費組合共同炊事場を訪ねて〈※ルポ〉

関 みさを 78 | 82
川野マス子 83 | 85

世界の動き〈※社会時評〉

新島 繁 86 | 87

流行と実用〈※随筆〉

川喜多かしこ 88 | 91

この冬のオーヴァ・コート〈※目次「この冬の婦人オ
ーヴァ」

牛山 隆介 88 | 91

古いオーヴァで美しい部屋着をへ目次「古いオーヴァ
で暖い部屋着を」

岩田とし子 92 | 93

正しい靴下の洗濯法

竹内 茂代 92 | 93

冬の婦人衛生について

竹内 茂代 94 | 95

感冒の予防と手当法

阿部真之助 95 | 99

女に就いて〈※随筆〉

佐藤 鈴子 96 | 99

私の結婚生活——理解と現実の問題——〈※感想、目
次「結婚と仕事と」

藤井田鶴子 100 | 101

新映画紹介

平林 英子 102 | 104

歳末ずるひつ

川瀬 美子 104 | 106

空想の贈物

日下 典子 106

憶ひ出あれこれ

佐々木節子 107 | 108

日記の中から

藤井 和子 108 | 109

働く婦人の手帖〈※生活記録〉

北原 操 110 | 111

授職部の半日*

竹内てるよ 114 | 119

髪*

鈴 〈※随筆〉

林の中の子供たち〈※童話〉

紙面解放のお知らせ 119

世相風俗よもやま放談会

告知板

十月に見た芝居〈※感想〉

美事に出版した作家たち

横田文子氏のこと

はげしい眼〈※目次「三井広子氏の作品」

東京読者茶話会のお知らせ、毎週土曜日お出かけ下さ
い〈※編集部解放のお知らせ〉*

婦人文芸三周年記念婦人の文芸講演会の記

歓迎のうた——ある夜の講演に対する感謝として佐藤
俊子氏に捧ぐ——〈※短歌〉

家庭生活と増税問題〈※社会時評〉

投稿詩(深尾須磨子選)⁽⁸⁾

談話室

編集後記

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

挿絵・カット——三岸節子 岸丈夫 加藤武子 志

120 | 139

139

140 | 142

140 | 142

143 | 144

144 | 145

144 | 145

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

146 | 149

(7) 末尾に「一九三六、一〇、三一」の日付あり。
 (8) 160頁に深尾の選評あり。

第四卷第一号 新年号

一九三七(昭12)年一月一日発行

表紙装幀

米倉 壽仁

グラフの頁(※写真と短文)

13 | 16

春の光(東日写真部提供)、霜の朝 (Fot: T. Yukawa)

収獲(同)、書齋訪問⁽¹⁾

扉絵

成瀬田鶴子

17

命の歌(※短歌)

今井 邦子

18 | 19

冬の手紙(※詩)

深尾須磨子

20 | 21

富士を見る(※詩)

英 美子

22 | 23

冬の童話(※詩)⁽²⁾

後藤 郁子

24 | 26

水雨(※短歌)

水町 京子

27

初冬雑筆(※随筆)

小寺 菊子

28 | 31

新年を待つ(※随筆)

北川 千代⁽³⁾

32 | 35

小説

海いろの地獄⁽⁴⁾

大田 洋子

36 | 58

胎動⁽⁵⁾

大石千代子

59 | 78

夢のある彼等

葵 イツ子

79 | 90

平太の生活

藤島 まき

91 | 99

小魚の心

真杉 静枝

100 | 113

婦人と社会的労働(※評論)⁽⁶⁾

戸坂 潤 114 | 121

スペインはどうなる?(※社会時評)

鈴木 東民 122 | 125

王朝の女流作家——更級日記の著者菅原孝標の女

(承前)——(※人物伝、第2回)

関 みさを 126 | 129

罷業手当(※翻訳小説)

D・H・ロレンス 原 百代訳

130 | 139

世界の動き(※社会時評)

新島 繁

140 | 141

海外のお正月(※随筆)

米加のお正月(※目次「米亜のお正月」)

佐藤 俊子 142 | 143

フランスのお正月

岡田八千代 143 | 144

ブラジルでのお正月

大石千代子 145 | 147

個性美の魅力(※随筆)

駒井 玲子 148 | 150

職業婦人向今春の流行(※目次「今春の婦人服」)

148 | 150

現代に於ける男の立場・女の立場を語る(※目次「男

の立場・女の立場を語る座談会」)

152 | 166

高見 順 石川 達三 田村泰次郎

湯浅 克衛 豊田 三郎 円地 文子

辻村もと子 平林 英子 新居 好子

小坂たき子 真杉 静枝 神近 市子

お知らせ*⁽⁷⁾、毎週土曜日お出かけ下さい(※編集部

解放のお知らせ)

166

社会時評

神近 市子 167 | 169

上代の女性風俗(※随筆)⁽⁸⁾

鳥居 緑⁽⁹⁾ 170 | 172

普遍性の欠亡——今日の文学に就いて——(※芸芸時

評)

福田 晴子 173 | 177

新年のお慶び申上ます*⁽¹⁰⁾

博勞の子——旅日記の一頁——

(絵と文) 岩松 淳

178 | 179

女流作家七人——文学の今日性——〈※文学時評〉

立野 信之

180 | 185

婦人宿泊所ればるたあじゆ

本誌記者

186 | 189

科学トピック

北原 操

198 | 199

映画物語〈※紹介〉

北原 操

194 | 197

働く働人の手帖〈※生活記録〉

岡田 桂子

200 | 202

カフエーの事務所で

赤木 時子

202 | 203

リンゴ(スケッチ)

赤木 時子

202 | 203

世界名作物語「イリアス」物語〈※紹介〉

赤木 時子

202 | 203

紙面解放のお知らせ*

赤木 時子

202 | 203

今日のレコード

赤木 時子

202 | 203

歌舞伎座・東劇・新国劇・前進座〈※劇評、目次「歌

岡田八千代

211 | 213

舞伎座・東劇その他〉

岡田八千代

211 | 213

連作コント・風の中のヤチ子

須賀 瑞枝

214 | 216

無神経な街

池田みち子

216 | 218

明智

池田みち子

216 | 218

戯れ

利根川ユリ

218 | 220

巴焼き

及川 圭子

220 | 222

上り列車——決意をいと高きところへ——

若林 つや⁽¹¹⁾

222 | 224

読んだものから

若林 つや⁽¹¹⁾

222 | 224

一九〇二年級*

石浜 秀子

224

婦人文芸編集部

177

投稿詩(深尾須磨子選)⁽¹²⁾
投稿短歌(編集部選)

談話室

編集後記

挿絵・カット——成瀬田鶴子 岸丈夫 小原栄治

志賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

(神近) (真気)

232

230 | 231
228 | 229
225 | 227

〔注〕

(1) 大谷藤子の写真と短文。

(2) 1と2に分かれ、1の番号のあとに「正月の来るある思出」の小題あり。

(3) 目次記載「北川千代子」。

(4) 岸丈夫が挿絵を担当。

(5) 東沢ヨシエが挿絵を担当。

(6) 末尾に「談話筆記に加筆したものである——戸坂」と記載。

(7) 「今月は年末多忙につき東京読者茶話会を休ませて頂きませす。」

(8) 末尾に「カットは私が想像して描いた上代の女性」とある。

(9) 目次記載「鳥居緑子」。

(10) 「婦人文芸編集部」として「神近市子、真気信子、徳田ま

子、落合けい子」の四名の名前が記されている。

(11) 目次記載「若林つや子」。

(12) 227頁に深尾の選評がある。

第四卷第二号 二月号

一九三七(昭12)年二月一日発行

表紙装幀

米倉 寿仁

グラフの頁(※写真と短文)

銀嶺(東日写真部提供)、母と子の家、応急手当

駒林 雅子 9 | 12

扉絵

岡本かの子

14 | 17

かの子抄(※随筆)⁽¹⁾

中野 鈴子

18 | 20

自分の詩(※詩)

永瀬 清子

20 | 21

花束(※詩)

高橋 英子

22

八つ手の花(※短歌)

生田 花世

23 | 29

春採黄記——菜の花のこと——(※随筆)

小説

不渡手形

野村 千代⁽²⁾ 30 | 46

田村三郎の日記

松本きみ子 47 | 61

母

峯 弘子 62 | 77

若き詩と女性(※文芸評論)

永瀬 清子 78 | 81

王朝の女流作家——更級日記の著者菅原孝標の女

関 みさを 82 | 85

(承前)——(※人物伝、第3回)

世界の動き(※社会時評)

新島 繁 86 | 88

スキー心得帖(※小品)

黒田 米子 89 | 91

モダン東京風俗往来(※随筆)

新宿のリアリズム

日下 典子 92 | 94

銀座の横顔

新居 好子 94 | 96

江東橋の「夜の宿」にて

浅井 花子 96 | 98

印度商館のアマさん

泉田 律子 98 | 100

神楽坂風景

小坂たき子 101 | 102

東京読者茶話会のお知らせ*、毎週土曜日本社へ

お出かけ下さい(※編集部解放のお知らせ)*

紙面解放のお知らせ*

白鳥 菊雄 103 | 107

現代女性の悩み?(※評論)

平林たい子 108 | 109

日記断章(※随筆)⁽³⁾

早春の流行——ハンドバック・コンパクト——⁽⁴⁾

早春の流行——ハンドバック・コンパクト——⁽⁴⁾

坂崎 坦 110 | 115

宮廷肖像画家ルブラン夫人(※列伝)⁽⁵⁾

山本 安英 116 | 118

唐人お吉と私(※随筆)

菊池 甚一 119 | 123

女人罪状記(※実話、第2回)

神近 市子 124 | 127

社会時評

横田 文子 128 | 131

短気(※随筆)

杉田 いち⁽⁶⁾ 131 | 135

よき読物を(※随筆)

辻 修 128 | 133

レコード新譜評

早春の流行——靴——

早春の流行——靴——

ブックレビュー*

小説集「鶴は病みき」(岡本かの子著)

133 | 134

お洒落談義(※目次「お洒落問答」)

135

働く人の春の洋装(※目次「働く婦人の洋装」)

マヤ・片岡 136 | 137

働く婦人の手帖(※生活記録)

水町 葉子 137 | 138

交換台*

城 晴子、 139 | 140

銀行の窓口*

小西みどり 140 | 141

映画物語〈※紹介〉

母と子の家を訪ねて〈※ルポ〉(7)

本誌記者

142 | 144

投稿詩(深尾須磨子選)

本誌記者

145 | 153

談話室

158 | 159

編集後記

(神近)(真気)

160

挿絵・カット——米倉寿仁 成瀬田鶴子 岸丈夫 志賀はるを 吉村進司 東沢ヨシエ

〈注〉

- (1) 「かの子抄」以後の七つの随筆をまとめて「随筆きさらぎ集」と目次に記されている。尚、「かの子抄」は『岡本かの子全集』第十三巻(冬樹社、昭51)に所収。
- (2) 野村千代は旧姓樺山といい、第二巻第三号に「伸びて行くもの」、第三巻第九号に「子貫ひ」という小説を寄せている樺山千代と同一人物である。
- (3) 『平林たい子全集』第十二巻(潮出版社、昭54)に所収。
- (4) 末尾に「銀座アザミ調べ」とある。
- (5) 末尾に筆者による「註」あり。
- (6) 目次記載「杉内いち」。
- (7) 末尾に記者による「附記」あり。

第四巻第三号 三月号

一九三七(昭12)年三月一日発行

表紙装幀

米倉 寿仁

グラフの頁〈※写真と短文〉

13 | 16

春装(東日写真部提供)、趣味のアルバム(1)(吉屋信

子氏撮影)・(2)(林芙美子氏撮影)、書齋訪問(1)

扉絵 馬淵美意子 17

読書ノートから〈※書評、目次一読書ノート〉

窪川 稲子 18 | 21

子供と一緒に歩く〈※詩〉 中田 信子 22 | 23

春の序曲〈※詩〉 丹塚もりえ 24 | 25

忘却の時〈※詩、目次「忘却の味」〉 沢木 隆子 26 | 27

戯曲

あらべすく〈※二幕物〉 辻山 春子 28 | 63

薄氷の沼〈※二幕物〉 村田 修子 64 | 97

パール・バックの作風その他〈※評論、目次「パール

バックの作風」(2) 中条百合子 98 | 102

街〈※短歌〉 阿部 静枝(3) 103

芝居随談〈※随筆〉 三好 十郎 104 | 106

王朝の女流作家——更級日記の著者菅原孝標の女(承

前)——〈※人物伝、第4回〉 関 みさを 107 | 110

漫画・女性解剖・NO1——『女性と新聞』——〈※目次

「漫画女性批判」〉 加藤 悦郎 112 | 113

風俗・流行・世相

和服への郷愁 三岸 節子 114 | 115

現代婦人風俗批評 岸 丈夫 115 | 117

不思議の充満 伊馬 鶴平 117 | 119

病床雑記〈※随筆〉 神近 市子 120 | 124

余技漫談

素人写真

林 美美子

125

追憶の女流作家⁽⁴⁾

素木しづ氏と「三十三の死」其他〈※随筆、目次

「素木しづさんと三十三の死」

おしいちやんの憶ひ出〈※回想〉

農村婦人と住居の問題〈※評論、目次「農村婦人と住

居」

近代インテリ女性の弱点(葉書回答)

徳永 直 小林 一三

矢崎 弾 中村 正常

高見 順 尾崎 士郎

菊地 甚一 岡田 三郎

レコードの三月新譜評

世界の動き〈※時事解説〉

春の映画紹介

職業婦人の日記*

美容放談

軽快な春のスタイル〈※目次「春のスタイル・色」〉⁽⁵⁾

東京読者茶話会のお知らせ*

紙面解放のお知らせ*、告知板*、毎週土曜日お出か

け下さい〈※編集部解放のお知らせ〉*

投稿詩(深尾須磨子選)⁽⁶⁾

本誌四月号より連載の「或る女の告白」について

〈※予告〉*

投稿短歌(編集部選)

談話室

編集後記

挿絵・カット——米倉寿仁 成瀬田鶴子 岸丈夫

志賀はるを 吉村進司

(真気)(落合)

160

158 | 159

〈注〉

(1) 大石千代子の写真と、「寒中譜」と題された彼女の短文が掲載。

(2) 『宮本百合子全集』第十一卷(新日本出版社、昭55)に所収。

(3) 目次には「街(短歌)高橋英子(二八)」となっているが、28頁には「街」という短歌は掲載されていない。

(4) はじめに素木しづの写真と、彼女についての短い解説がある。

(5) 末尾に「白木屋調べ」と記載。

(6) 154頁に深尾の選評あり。

第四卷第四号 四月特集号

一九三七(昭12)年四月一日発行

表紙装幀

森井 輝雄

グラフの頁〈※写真と短文〉

13 | 16

漣に春きらめきて(東日写真部提供)、趣味のアルバム

ム(1)(2)(佐藤俊子氏、丸岡秀子氏撮影)、書齋訪問⁽¹⁾

季節の感想〈※随筆〉

神近 市子

ほのかに春よ〈※詩〉

木村 好子

23 | 25

エンゼル・フイツシュ(※詩)

初冬(※小説)⁽²⁾

現代アメリカ女流詩抄(※第1回)⁽³⁾

四月の命運*

女*

鷺の唄*

創作

桜花幻想(※小説)

温室葡萄(※戯曲一幕物)

最近婦人運動の動向(※婦人社会時評)

労働組合運動に於ける最近の労働婦人の動向

職業婦人の動向⁽⁴⁾

文芸時評

チェーホフの近代性(※評論)

職業婦人の演劇(※感想)

「明日香」新人九人集(※短歌)

座談会

男の貞操・女の貞操⁽⁵⁾

式場隆三郎	王城	肇	平林たい子
吉屋 信子	中条百合子		水町 葉子
八幡美智子	太田 洋子		神近 市子

160 | 167

露木 陽子	25 27
浅井 花子	28 72
森三千代訳	

レオニー・アダムス	73 76
ルイズ・ボーゲン	76 78
メリー・オースチン	78 81

横田 文子	82 104
鍋島 道子	105 132

赤松 常子	133 135
八幡美智子	135 139
福田 晴子	141 144
井部 愛子	145 152
富本 一枝	153 155

保里 佳子	大沢 春子	椎野 かつ
相見 雪子	横内 菊枝	梅沢 貞
白井 敦子	永田 露子	大塚 文野

世界動き(※時事解説)	新島 繁	168 170
婦人雑誌批判		
雑誌企業の商品化		
一職業婦人の見た婦人雑誌		
婦人を侮辱するもの		
毎週土曜日お出かけ下さい(※編集部解放のお知らせ)*		
女人罪状記(※実話、第3回)——或る殺人事件が無		
罪になつた話——		
原名IIソヴェト結婚生活の日記		
或る女の告白(※翻訳小説、第1回) ⁽⁶⁾	P・ロマノフ	182 193
投稿短歌(編集部選)	内山 敏訳	194 195
映画物語(※紹介)		196 198
四月の洋楽レコード(※目次「四月の音楽」)		196 198
働く婦人の手帖(※生活記録)		199 200
吹雪の夜の往診	島田 杜美	201 202
百円の命	田中 ふみ	202 203
サラリーマン家庭風景	三田 年子	203 204
鏡	城 晴子	205 206
談話室		206
東京読者茶話会の予告*		207
紙面解放のお知らせ*		
編集後記	(神近)(村山)(森井)	
挿絵・カット——米倉寿仁 成瀬田鶴子 岸丈夫		
志賀はるを 吉村進司 森井輝雄		

〔注〕

- (1) 佐藤俊子の写真、並びに「フリージヤの香に叛きて」なる彼女の短文掲載。
- (2) 末尾に「一九三七年、一月二十日」の日付あり。
- (3) 各詩のはじめに作者についての簡単な解説がある。
- (4) 末尾に「一二、三、三」の日付あり。
- (5) 末尾に「速記者急病臥床の為め原稿が間に合はないので後半は五月号に連載いたします」とある。
- (6) 182頁は作者、及び作品についての解説。尚、作品についての解説は前号（第四卷第三号）の予告頁（155頁）のものとはほぼ同じもの。

第四卷第五号 五月号

一九三七（昭12）年五月一日発行

表紙装幀

森井 輝雄

グラフの頁〔※写真と短文〕

13—16

微風（東日写真部撮影）、趣味のアルバム（細川ちか子氏、大石千代子氏撮影）、作家訪問——大田洋子氏——

随筆

五月

今井 邦子 18—21

明日の夜——今日を悼んで——

長谷川時雨 21—24

をとめに臆るうた〔※詩〕

方等みゆき 25—28

沈丁花〔※詩〕

岡村須磨子 28—29

摘まれざる花〔※小説〕

利根川ユリ 30—57

現代アメリカ女流詩抄〔※第2回〕(1)

冬*

森三千代記

パークシヤイアの流の仕事*

グレースコンクリング

リラ*

エミイ・ロウエル

原名ソソヴェト結婚生活の日記

P・ロマノフ

或る女の告白〔※翻訳小説、第2回〕

内山 敏 65—71

一少女のスケッチ〔※小説〕

真杉 静枝 72—78

或る日〔※短歌〕

丹沢 豊子 79

文芸時評

三つの作品

松田 解子 80—83

恋愛と生殖との遊離〔※評論〕

木村 莊五 84—87

社会時評

神近 市子 88—92

世界の動き〔※時事解説〕(2)

新島 繁 94—96

告知板*

96

近代生活と栄養——新しい栄養講座——

上荘皓太郎 97—99

座談会

男の貞操・女の貞操〔※統篇〕

10—11

式場隆三郎 玉城 肇

平林たい子

吉屋 信子 中条百合子

水町 葉子

八幡美智子 太田 洋子

神近 市子

女人罪状記〔※実話、第4回〕

菊池 甚一 112—116

実話

田舎町に悩む人妻の告白

港 さかゑ 118—125

生きる——肺療院から——〔※随筆〕

永井 街子 126—129

映画物語

五月の洋楽レコード〔※目次「五月の音楽」〕 R・S・T 130 | 133
北東の風——新協三月公演批評——〔※演劇時評〕* 130 | 134

働く働人の手帖〔※生活記録〕

ある日の手帖

月給二十円

春

看護婦の要求

紙面解放のお知らせ*

ピクニックのお知らせ*、毎週土曜日お出かけ下さい

〔※編集部解放のお知らせ〕*

投稿短歌〔編集部選〕

投稿詩〔英美子選〕(3)

談話室

編集後記

婦人社員募集〔※お知らせ〕*(4)

挿絵・カット——村田勝四郎 成瀬田鶴子 志賀はるを 吉村進司 森井輝雄

るを 吉村進司 森井輝雄

〔注〕

(1) 各詩のはじめに、作者についての簡単な解説がある。

(2) 末尾に「もう一度筆者から皆さんへ」という追記あり。「どうやら来月号あたりからは有能な御婦人の執筆者に代つていた

だけさうです。」の文がある。

(3) 147頁に選評あり。その末尾には「本号より深尾須磨子氏に替り、私が選稿いたすことになりました。」の文を含む選者の追

記あり。
(4) 「雑誌の経済的基礎をもつと安固なものにしたい為めに」、「高級化粧品テアトルクレーム」なる化粧品を発売することになり、その販売員を「二三三人」募集しようというもの。「テアトルクレーム」の広告は117頁にある。

第四卷第六号 六月号

一九三七(昭12)年六月一日発行

表紙装幀

グラフの頁〔※写真と短文〕

木立(東日写真部撮影)、作家訪問——浅井花子氏——

隨筆

紐育の女の生活

寂しさ

帽子〔※短歌〕

さびしい自由の中に〔※詩〕

六月の花サルビア〔※詩〕

世紀の夜〔※詩〕

創作〔※小説〕

帰鳥

勝敗決せず(1)

楯の木立〔短歌〕

現代アメリカ女流詩抄〔※第3回〕(2)

森井 輝雄

15 | 16

藤原 あき 18 | 21

横山美智子 22 | 24

高桑 菊子 25

永瀬 清子 26 | 27

竹内てるよ 28 | 29

鮫島 慶江 30 | 31

平林 英子 32 | 66

日下 典子 67 | 86

井上たか子 87

森三千代訳

子供の死*

バベット・ダツチ 88 | 89

装飾*

ブレンチ・マシアス 89

原名IIソヴェト結婚生活の日記

或る女の告白(※翻訳小説、第3回)

P・ロマノフ 90 | 100
内山 敏訳

ナチドイツの婦人政策と婦人労働者(※婦人社会時評)

桐畑 剛吉 102 | 108

世相雑感(※随筆)(3)

平林たい子 110 | 112

婦人社員募集(※新知社よりお知らせ)(4)

井部 愛子 113 | 118

栄養の常識——新らしい栄養講座(二)——

上 荘皓太郎 119 | 125

ソ同盟に広く行はれる無痛分娩法(5)

アンドリュウ・ヴォイノウ 126 | 129
石浜秀子訳

劇評

科学追放記

飛弾 高子 119 | 121

婦人と趣味のカメラ

印南健之助 121 | 128

「創作」新人五人集(※短歌)

春動く

千葉 つな 130

病臥

広瀬 章子 131

子等とゐて

平田 澄子 131 | 132

仔犬

本多 順子 132 | 133

露人キャバレー

村田 りせ 133

世界の動き(※時事解説)(6)

沼田 睦子 134 | 137

満支の旅から(※紀行)

石原 清子 138 | 141

投稿短歌(編集部選)

142 | 143

投稿詩(英美子選)

映画物語(※映画のあらすじ紹介)

150 | 152 | 144 | 149

働く婦人の手帖(※生活記録)

休みなぎ休日

三田 友子 153 | 155

料亭雑記

増田 玉子 155 | 156

談話室

157 | 158

紙面解放のお知らせ*、毎週土曜日お出かけ下さい

(※編集部解放のお知らせ)*

編集後記

(神近)(森井)(村山)

159 158

挿絵・カット——村田勝四郎 成瀬田鶴子 志賀は

るを 吉村進司 森井輝雄 駒林雅子

〔注〕

(1) 末尾に「窮屈な構想などなく、終りのない小説とも言ひたい」この小説を書いた作者の意図が附記として記されており、「一九三七・五」の記載もある。

(2) 各詩のはじめに作者についての簡単な解説あり。

(3) 『平林たい子全集』第十一巻(潮出版社、昭54)に所収。

(4) 前号(第四巻第五号)の152頁の募集文と同じ。前号の〔注〕

(4) 参照。

(5) はじめに「これは、モスコ・ニュースの最近号に紹介された小文「ソ同盟に於ては、無痛分娩によつて分娩の恐怖が完全に消滅した」を訳したものである。」という一文を含む「はしがき」があり、その末尾には「一九三七・四・九 沼田睦子」と記されている。

(6) 末尾に「五月十日」の日付があり、筆者が今月から担当することになったということを告げる「筆者より」という断り書きがある。

第四卷第七号 七月四周年特集号
一九三七(昭12)年七月一日発行

表紙装幀

グラフの頁(※写真と短文)

まだら雲(編集部撮影)、最近ソヴェト画報(除村氏提供)、時事ニュース

扉カット

四周年を迎へる

逗子遊行(※短歌)

迂曲信号標——或る日の旅より——(※随筆)

六月の槐(※短歌)

島の日記(※詩)⁽¹⁾

流れは海へそよいでゐる(※詩)

中国に於ける二人のアメリカ婦人——アグネス・スメ

ドレーとパール・バック——(※評論)⁽²⁾

婚姻の成立(※評論)

「ごぎやう」新人六人集(※短歌)

弟

なげき

母と子

晩春

妻のうたへる

駒林 雅子

1—4

森井 輝雄

神近 市子 10—12

尾崎 孝子 13

生田 花世 14—16

丹沢 豊子 17

英 美子 18—19

後藤 郁子 20—21

中条百合子 22—29

川瀬 広雄 30—37

石田 美枝 38—39

葛原 けい

竹田守貞子

藤原かた子

松浦 颯子

あぢさゐの花

谷口 敏子

社会時評

狩野 弘子 40—46

文芸時評

「帰鳥」と「勝敗決せず」

小坂たき子 48—50

四周年の言葉

明日へ望む

石原 清子 52—54

四周年に際して(※目次「四周年を迎へて」)

地上の麦たらん事を⁽³⁾

丸岡 秀子 54—55

婦人と音楽(※音楽評論)

八幡美知子⁽⁴⁾ 55—57

日本映画と金銭の問題——時評に代へて——(※映画評論)⁽⁵⁾

山根 銀二 58—62

世界の動き(※時事解説)⁽⁶⁾

菅見 恒夫 63—65

座談会

沼田 睦子 66—69

ソ・米・支女性を語る

70—91

除村 ヤエ

河崎 なつ

藤原 あき

佐藤 俊子

丸岡 秀子

松田 解子

狩野 弘子

石原 清子

速記・日野千賀子

神近 市子

七月のレコード(※紹介)

R・S・T 92—93

物価騰貴で貴女は何を切り詰めましたか(※アンケート)⁽⁷⁾

ト

94—99

映画物語(※映画のあらすじ紹介)

100—102

劇評

前進座と新築地——六月の芝居評——

T

103

働く婦人の手帖〈※生活記録〉

日記抄

或る夜

手帖から

告知板*、毎週土曜日お出かけ下さい〈※編集部解放

のお知らせ〉*

投稿詩(英美子選)⁽⁸⁾

紙面解放のお知らせ*

投稿短歌〈編集部選〉⁽⁹⁾

創作⁽¹⁰⁾

明暗〈※小説〉

真昼の現実〈※小説〉

崖に這ふ花〈※小説〉

おなつ〈※小説〉

談話室⁽¹¹⁾

東京読者茶話会のお知らせ*

編集後記⁽¹²⁾

目次・創作カット——村田勝四郎

〈注〉

(1) 末尾に「五島列島にて」とある。

(2) 『宮本百合子全集』第十一巻(新日本出版社、昭55)に所

収。

(3) 末尾に「十二、六、三」の日付あり。

(4) 目次記載「八幡美智子」。

(5) 末部は50頁に分載。

(6) 末尾に前号(第四巻第六号)の訂正あり。

三浦	富子	104	105
藤井	和子	105	106
吉岡	静枝	106	107

108	111
112	113

大石千代子	1	31
野村千代	33	56
須賀瑞枝	57	76
三井広子	77	89
90	91	
92	93	

(神近)(森井)(村山)(吉田)

(7) 問いは以下の三つ。「一、貴女の職業、給料は? 一、物価

騰貴で貴女は何を切り詰めましたか? 一、貴女自身の、又は

職場の物価騰貴に対する御意見、対策は?」。回答者は以下の

十四名。二上桂子(東京・事務員)、松村とし子(大阪・事務

員)、高橋光子(東京・主婦)、山中英子(大阪・事務員)、上

原美津子(東京・交換手)、中村とみ子(東京・女給)、松本き

み子(東京・車掌)、藤井和子(東京・事務員)、坂井友子(東

京・事務員)、田中利江(東京・女工)、中田とみ子(東京・女

工)、鈴木静江(東京・看護婦)、海野滋子(名古屋・タイピス

ト)、田代翰(東京・看護婦)

(8) 末尾に選評あり。

(9) 末尾に選評あり。

(10) 創作欄から頁数が新たになっている。

(11) 末尾に「編集部より」のコメントあり。

(12) 「発表ごとと好評の「ある女の告白」は訳者が御病気のため

休載いたしました」の文がみえる。

第四巻第八号 八月号 一九三七(昭12)年八月一日発行

表紙装幀

グラフの頁〈※写真と短文〉

夏・夏、時事ニュース

扉カット

友達のもの〈※随筆〉

東北部落〈※短歌〉

駒林 雅子

矢崎 武子

神近 市子

阿部 静枝

1 | 2

18 | 22

23

風のやうに〈※詩〉

木村 好子 24—25

科学トピック

上荘皓太郎 130—131

二少女〈※小説〉

松本喜美子⁽¹⁾ 26—50

女人罪状記〈※実話、第5回〉

菊地 甚一 132—148

朝庭〈※短歌〉

林 丕沙子 51

前進座の研究所を見る

149

架空〈※小説〉

佐々木澄江 52—67

映画物語〈※映画のあらすじ紹介〉
働く婦人の手帖〈※生活記録〉

150—152

原名IIソヴェト結婚生活の日記

農村雑記

小松ひでみ 153—154

或る女の告白〈※翻訳小説、第4回〉

P・ロマノフ
内山 敏訳 68—82

旅行勧誘員の手帖〈※目次「旅行勧誘員の手記」〉

演劇によせて〈※演劇時評〉

村田 修子 83—86

日記の中より

山上 松子 154—155

社会時評

狩野 弘子 87—92

マネキンの記

内藤 純子 155—156

文芸時評

福田 晴子 93—95

投稿短歌(編集部選)

吉田 秀子 156—157

川上喜久子氏の作其他

投稿詩(英美子選)⁽⁵⁾

158—159

曲線の独語——中間者の苦悶に寄する詩——〈※四部

深尾須磨子 96—108

紙面解放のお知らせ*

160—163

詩⁽²⁾

暑中御見舞申上げます〈※編集部からのあいさつ〉*

164—165

読書案内⁽³⁾

談話室

講演速記

告知板*、毎週土曜日お出かけ下さい〈※編集部解放

166

女は何を求めるか——一九三七年六月於白木屋——

神近 市子 110—119

のお知らせ)*

神近 市子 167—168

〈※婦人評論〉

劉 蒙暉 120—121

のお知らせ)*

122—123

上海の婦人雑誌〈※中国通信〉⁽⁴⁾

東京読者茶話会のお知らせ*

「草の実」新人五人集〈※短歌〉

比企野英子

鵜飼(長良川にて)

飯島富久子

おもひ

三宅 五衣

閑古鳥

田所 すが

栓の葉

清野 閑子

ひたすら心——ウインザー夫妻——

沼田 睦子 124—127

世界の動き〈※時事解説〉

〈注〉
(1) 目次記載「松本きみ子」。

編集部

(神近)(村山)(森井)

- (2) 詩の末尾に「三〇・初夏」とあり、「曲線の独語」という詩について、「この一篇は、かつて何かの詩誌に発表したことがあるが、ほんの一部にしか読まれなかつたと思ふので、こゝに再発表、より多くの人々に読んで頂きたいとねがつてゐる。」という深尾の附記がつけられている。
- (3) 玉城肇氏著『家族論』、吉岡弥生女史著『来るものゝ為に』。はじめに編集部による前書きあり。
- (4) 163頁は「選後のことば」。
- (5)

III 索 引

第一編	1-1-1	第一編	1-1-1
第二編	1-2-1	第二編	1-2-1
第三編	1-3-1	第三編	1-3-1
第四編	1-4-1	第四編	1-4-1
第五編	1-5-1	第五編	1-5-1
第六編	1-6-1	第六編	1-6-1
第七編	1-7-1	第七編	1-7-1
第八編	1-8-1	第八編	1-8-1
第九編	1-9-1	第九編	1-9-1
第十編	1-10-1	第十編	1-10-1
第十一編	1-11-1	第十一編	1-11-1
第十二編	1-12-1	第十二編	1-12-1
第十三編	1-13-1	第十三編	1-13-1
第十四編	1-14-1	第十四編	1-14-1
第十五編	1-15-1	第十五編	1-15-1
第十六編	1-16-1	第十六編	1-16-1
第十七編	1-17-1	第十七編	1-17-1
第十八編	1-18-1	第十八編	1-18-1
第十九編	1-19-1	第十九編	1-19-1
第二十編	1-20-1	第二十編	1-20-1
第二十一編	1-21-1	第二十一編	1-21-1
第二十二編	1-22-1	第二十二編	1-22-1
第二十三編	1-23-1	第二十三編	1-23-1
第二十四編	1-24-1	第二十四編	1-24-1
第二十五編	1-25-1	第二十五編	1-25-1
第二十六編	1-26-1	第二十六編	1-26-1
第二十七編	1-27-1	第二十七編	1-27-1
第二十八編	1-28-1	第二十八編	1-28-1
第二十九編	1-29-1	第二十九編	1-29-1
第三十編	1-30-1	第三十編	1-30-1
第三十一編	1-31-1	第三十一編	1-31-1
第三十二編	1-32-1	第三十二編	1-32-1
第三十三編	1-33-1	第三十三編	1-33-1
第三十四編	1-34-1	第三十四編	1-34-1
第三十五編	1-35-1	第三十五編	1-35-1
第三十六編	1-36-1	第三十六編	1-36-1
第三十七編	1-37-1	第三十七編	1-37-1
第三十八編	1-38-1	第三十八編	1-38-1
第三十九編	1-39-1	第三十九編	1-39-1
第四十編	1-40-1	第四十編	1-40-1
第四十一編	1-41-1	第四十一編	1-41-1
第四十二編	1-42-1	第四十二編	1-42-1
第四十三編	1-43-1	第四十三編	1-43-1
第四十四編	1-44-1	第四十四編	1-44-1
第四十五編	1-45-1	第四十五編	1-45-1
第四十六編	1-46-1	第四十六編	1-46-1
第四十七編	1-47-1	第四十七編	1-47-1
第四十八編	1-48-1	第四十八編	1-48-1
第四十九編	1-49-1	第四十九編	1-49-1
第五十編	1-50-1	第五十編	1-50-1

執筆者索引・凡例

- 一、本索引は五十音順の配列とし、外国人は苗字（姓）を基準とした。
- 一、原則として仮名遣いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に改めた。
- 一、ローマ字で表記の人名はアルファベット順とした。
- 一、筆名は、わかる限り慣用されている名前にまとめた。なお、編集部で補足したものは「」で示した。
- 一、表記は、巻数―号数―頁数の順とした。
- 一、口絵に掲載されている執筆者は採らなかつた。

（編集部）

執 筆 者 索 引

- | | |
|------------|--|
| | 3-11-74 |
| あ | |
| R・M 生 | 2-6-157 |
| R・S・T | 4-5-130, 4-7-92 |
| アイ・ケイ | 1-3-132 |
| アダムス, レオニー | 4-4-73 |
| 藍川陽子 | 1-5-91, 1-6-29,
2-2-114, 2-9-96,
3-1-85 |
| 相田ツル子 | 1-3-81 |
| 藍野照子 | 3-1-68 |
| 合原 滋 | 2-7-131 |
| 相見雪子 | 1-2-100, 2-3-148,
4-4-157 |
| 葵イツ子 | 1-5-90, 3-2-147,
3-7-124, 4-1-79 |
| 青木恵一 | 3-4-8 |
| 青木ゆき | 2-9-84, 2-11-48,
2-12-8 |
| 青野季吉 | 1-4-71, 3-10-85 |
| 青山俊夫 | 2-1-110 |
| 青山雪子 | 4-4-205 |
| 青山留美 | 2-11-38, 2-12-155 |
| 赤石敬一 | 2-6-107 |
| 赤木時子 | 4-1-202 |
| 赤沢佐以子 | 2-2-96, 2-4-104,
2-5-158 |
| 赤松常子 | 4-4-133 |
| 秋尾 董 | 2-6-155 |
| 秋田雨雀 | 1-4-73, 2-5-110, |
| | 2-10-60 |
| 秋山みつ子 | 2-10-60 |
| 浅井花子 | 2-4-172, 2-6-10,
2-8-46, 2-10-90,
3-3-86, 3-6-104・133,
4-2-96, 4-4-28 |
| 浅海 絢 | 3-10-107 |
| 浅海鋭子 | 3-11-162 |
| 朝霧かほる | 4-7-91 |
| 浅野田鶴子 | 4-3-158 |
| 安達佐貴子 | 3-1-140 |
| 足達智子 | 4-2-158 |
| 阿藤ういぬ | 1-3-70 |
| 阿部静枝 | 4-3-103, 4-8-23 |
| 阿部真之助 | 2-1-110, 3-11-96 |
| 阿部千鶴子 | 3-1-138 |
| 阿部フミ | 1-3-84 |
| 荒井彩子 | 3-3-48 |
| 新井利子 | 4-4-195, 4-5-149,
4-7-108, 4-8-162 |
| 荒田英子 | 2-5-158, 2-7-205 |
| 有馬しづ | 4-5-144 |
| 安藤佐貴子 | 3-7-82 |
| | い |
| | 2-2-6 |
| インベル, ウェーラ | 2-2-6 |
| 飯島富久子 | 4-8-122 |
| 飯塚要子 | 1-6-127, 2-2-116,
2-10-132 |
| 飯村二葉 | 2-10-26 |

- 生田花世 1-2-90, 1-6-103,
 2-1-108・146, 2-2-89,
 2-3-128, 2-5-126,
 2-9-142, 2-10-71,
 2-12-128, 3-1-186,
 3-5-64, 3-6-14, 3-7-52,
 3-8-76, 3-9-34,
 3-11-146, 4-2-23,
 4-3-126, 4-7-14
 池上ゆき 3-1-123, 3-5-84,
 3-7-101
 池田スミ子 2-9-136
 池田寿夫 3-8-26
 池田みち子 3-11-40, 4-1-216
 池田レイ 4-2-155
 池知まさ子 3-4-124
 石 井 2-10-46
 石井東一 3-9-12
 石井友幸 2-11-8
 石井波留子 3-1-157
 石垣綾子 2-8-84
 石川勝子 2-3-152, 2-4-176
 石川達三 4-1-152
 石田美枝 3-7-83, 4-7-38
 石橋しづ子 3-7-82
 石浜秀子 1-5-162, 1-6-96,
 2-3-60, 2-5-99,
 2-7-138, 2-8-73,
 2-9-153, 2-11-75,
 2-12-148, 3-1-132,
 3-2-58, 3-3-93・118,
 3-5-74, 3-7-91,
 3-8-90・93, 3-9-34,
 3-10-94, 4-1-224,
 4-6-126
 石原清子 1-3-80, 2-10-63,
 2-11-33, 3-2-24,
 3-4-15, 3-5-30,
 3-11-150, 4-6-138,
 4-7-52・70
 石本〔加藤〕静枝 2-1-113,
 3-6-25, 3-7-16,
 3-10-37
 石本藤子 3-4-91
 和泉あき 3-4-124
 泉 すい 3-7-100
 磯江朝子 3-1-138
 磯部しづ子 3-10-107
 板垣喜久子 3-7-85
 一色 湖 4-1-229,
 4-3-152・157・159,
 4-5-143・148,
 4-6-143・144
 伊 藤 3-2-164, 3-3-160,
 3-4-69, 3-5-152,
 3-6-153, 3-7-197,
 4-1-230
 伊藤菊枝 1-2-101
 伊東さち子 3-10-108
 伊藤静枝 2-4-159, 2-5-154,
 2-6-147, 2-7-176
 伊藤ノブ子 3-10-108
 井上たか子 3-1-139, 4-6-87
 井上まつ子 3-4-78, 3-9-34
 井上祿子 4-5-143
 伊庭 孝 2-7-91
 伊庭 信(伊庭信子) 2-5-161,
 3-2-104, 3-3-115,
 3-7-103, 3-8-114
 伊吹山百合子 1-6-127, 2-3-150
 井部愛子 2-10-29, 3-3-64,
 3-4-38, 3-5-52, 3-8-42,

3-9-44, 4-4-145,
4-6-113
伊馬鶉平 3-10-85, 4-3-117
今井邦子 1-1-108, 1-2-120,
1-5-104, 2-1-112・116,
2-2-123, 2-7-144,
3-2-33, 4-1-18, 4-5-18
今崎静江 4-3-159
今村 3-5-94
今村生 3-9-96
岩井とし 3-11-162
巖木 勝 2-12-67, 3-3-8
岩田とし子 3-11-92
岩松 淳 4-1-178
印南健之助 4-6-121

う

ヴオイノウ, アンドリウ 4-6-126
ウォルコフ, エヌ 3-1-116
上田敏子 4-1-225, 4-6-147
上野壮夫 3-1-58
上野 碧 3-3-111, 3-9-74
上原美津子 4-7-96
牛山隆介 2-7-156, 3-11-88
臼井敦子 1-2-101, 2-7-167,
4-4-158
内山 敏 4-4-182, 4-5-65,
4-6-90, 4-8-68
宇野とよ 1-3-82
生方たつゑ 1-3-122
海野濙子 4-7-99
梅沢 貞 1-3-122, 2-2-100,
4-4-158

え

A 1-6-156
H 子 1-4-131, 1-5-204
N・H 4-3-158
N 生 3-11-162
S・M 3-4-121, 3-9-82
S U 生 1-6-100
X Y Z 2-1-190, 2-3-164,
2-6-158, 2-8-82,
2-12-164, 3-7-87,
4-7-51
江口 渙 1-4-72, 2-1-111
江田トミ子 4-2-159
江東すま 4-1-231
円地文子 2-9-113, 3-4-70,
4-1-152

お

オジケ, マリー 2-11-69
オースチン, メリー 4-4-78
及川圭子 3-8-85, 4-1-220
及川弘子 4-2-159
及川道子 2-3-114
大井重代 1-2-99, 2-3-148
大石千代子 2-2-37, 2-9-71, 3-5-95,
3-7-139, 4-1-59, 4-7-1
大久保さわ子→八木さわ子
大迫規子 2-4-150
大沢春子 1-5-160, 4-4-156
大沢富美子 1-6-125
大須成秋 2-1-161
太田静子 3-1-140
太田武夫 3-7-77, 3-10-89

大田みさを	4-2-159	小川ひで代	3-2-84
大田洋子	2-1-107, 4-1-36, 4-4-160, 4-5-100	小川松子	3-6-113
大谷藤子	1-3-78, 1-5-85・99・104, 2-1-91, 2-8-143, 2-10-144, 3-4-124, 3-9-94	沖みさ江	3-10-102
大塚君子	3-2-46, 4-7-91	荻原みどり子	3-5-98
大塚文野	1-2-101, 4-4-159	奥井清子	3-5-96
大貫迪子	3-1-137	奥田貞子	3-4-114
大野みどり	3-1-139, 3-7-82	奥田白春	2-6-152, 2-7-203
大場静子	2-3-107	小倉寿子	1-6-128
大畑李花	2-7-206・208, 2-9-137, 2-10-132, 3-1-156, 3-5-96, 3-6-110	小倉雪江	3-1-152, 3-3-112・127, 3-8-115
大原富枝	1-6-129, 2-1-142, 2-3-149, 2-4-43, 2-5-161, 2-11-115	尾崎士郎	2-1-107, 4-3-140
岡 邦雄	3-1-13	尾崎孝子	3-7-74, 3-10-19, 4-7-13
岡田桂子	4-1-200	押川如水	2-5-153
岡田三郎	1-4-72, 2-1-109, 4-3-141	小千谷・S	4-1-231
岡田静枝	2-7-181	小田初枝	2-2-88, 2-3-149, 2-4-106・171, 2-5-131, 2-6-65, 2-7-208, 2-10-180, 2-11-114
岡田禎子	3-3-72	小宅しやう	2-2-99
岡田弘子	2-10-129	落合→落合けい子	
岡田八千代	2-12-138, 3-6-94, 3-11-140, 4-1-143・211	落合けい子(落合)	4-3-160
岡野房子	3-3-105・119	鬼鳥三四	2-11-114
岡村須磨子	1-2-83, 1-5-122, 2-4-171, 4-5-28	小野明子	2-8-29
岡村すみ子	3-11-162	小野克子	3-1-140, 3-7-84
岡村昌子	4-2-159	小野ユリ	3-4-84
岡本かの子	1-5-64, 2-6-140, 3-8-52, 4-2-14	遠地輝武	2-11-22, 3-6-64
岡本賢次	3-10-65		
岡本れい	4-2-159		

か

カレワノウ, A	2-5-123
甲斐仁代	1-6-113, 3-11-73
甲斐水棹	3-1-139
皆藤きみ子	1-3-123
香川明子	4-7-113
影山久美子	3-1-157, 3-2-98・105,

- 3-4-108, 3-5-96・102,
3-6-104,
- 笠間杲雄 2-11-103
- 梶並まち 2-6-156, 2-8-111
- 櫛野恒子 1-3-69
- 鹿島波沢 4-6-143
- 片岡鉄兵 2-6-74, 3-1-13
- 片山恵美子 3-1-140
- 片山道子 4-8-159
- 方等みゆき 1-6-85, 2-1-190,
3-10-22, 4-5-25
- 勝瀬壮一 2-6-123
- 香月登美 2-12-143
- 加藤→加藤敏子
- 加藤アヤノ 3-2-100
- 加藤悦郎 4-3-112
- 加藤勘十 4-3-138
- 加藤小夜子 3-4-111
- 加藤たみ子 3-11-162
- 加藤敏子(加藤) 2-3-198,
2-4-105, 2-5-176,
2-6-174, 2-7-96・222,
2-8-81・171,
2-9-40・159・180・182,
2-10-46・181, 2-11-170,
2-12-165, 3-1-13・204,
3-3-160, 3-4-126,
3-6-93・95, 3-8-89,
3-9-34
- 嘉納とわ 3-1-140
- 狩野弘子 2-2-75, 2-10-40,
2-11-26, 2-12-84,
3-3-38, 3-4-54・119,
3-5-45, 4-4-171,
4-7-40・70, 4-8-87
- 樺山千代(野村千代) 1-3-79,
- 1-5-97, 2-3-28,
3-9-100, 4-2-30,
4-7-33
- 上泉秀信 2-1-113
- 上荘皓太郎 4-5-97, 4-6-119,
4-8-130
- 神代翰子 3-8-101, 4-5-149
- 神代不二子 3-3-101, 3-5-82,
3-7-100
- 神近→神近市子
- 神近市子(神近) 1-1-95, 1-2-128,
1-3-60・74・98,
1-4-80・131,
1-5-138・204,
1-6-100・156,
2-1-214・215,
2-3-9・198, 2-4-9・192,
2-5-96・176, 2-6-9・174,
2-7-9・134・180・230,
2-8-171, 2-9-7・181,
2-10-7・46・182,
2-11-7・126・170,
2-12-7・127,
3-1-7・13・36・203,
3-2-7・164, 3-3-7・22,
3-4-7・126・68,
3-5-7・8・152,
3-6-7・34・52・91・152,
3-7-15・66・196・197,
3-8-37・166,
3-9-7・30・34・153,
3-10-37・162,
3-11-120・163,
4-1-152・167・232,
4-2-124・160, 4-3-120,
4-4-18・160・207,

	4-5-88・100, 4-6-159,		
	4-7-10・70・92,		き
	4-8-18・110・166・167		
上仲絹子	3-1-126, 3-2-105,	季 花	4-1-229
	3-3-117, 3-6-112,	菊尾豊子	4-2-158
	3-7-104	菊地昭江	2-12-156, 3-1-156
亀井勝一郎	1-4-74, 2-1-107,	菊池甚一(菊地甚一)	4-1-190,
	2-6-79		4-2-119, 4-3-141,
鴨下荻江	3-7-84		4-4-176, 4-5-112,
川上津江	1-6-73		4-8-132
川上文子	4-8-165	菊盛英夫	2-7-89
川喜多かしこ	3-11-88	如月藍子	4-4-195
川 口	2-10-46	貴司山治	2-1-113
川口千香枝	3-1-136	岸 丈夫	4-3-115
河崎なつ(河崎なつ子)	1-5-103,	岸 輝子	2-3-103
	4-7-70	岸田隅江	3-1-123, 3-11-161
川島園子	2-10-129	岸田千代子	3-1-139
川尻秀子	3-11-161	喜田麗子	2-12-111
河瀬秀太郎	3-10-87	北川千代	2-1-108, 4-1-32
川瀬広雄	4-7-30	北島 楓	2-7-204・208
川瀬美子	1-6-144, 3-4-82,	北原 操	3-6-106, 3-7-74,
	3-11-104		3-11-110, 4-1-198
河田 潔	3-9-8	北山雅子	3-7-105, 3-11-146
川野マス子	3-11-83	木寺黎二〔松尾 隆〕	2-11-12
河原よし子	3-6-98	衣川ふさ	4-5-142, 4-6-143,
河東清子	1-5-143		4-7-113, 4-8-158
河村かつね	2-6-155, 2-8-110,	絹田とし	4-6-148
	2-9-136, 2-11-115	木下歌子	2-8-146
川村幸子	4-4-205	君 島	2-10-46
河村しゆん	2-8-110, 2-9-137	木村莊五	4-5-84
神崎 清	1-3-124, 1-4-94,	木村恒子	3-4-108
	2-1-112, 2-6-85,	木村好子	2-8-101, 3-3-87,
	3-1-92		4-4-23, 4-8-24
神田テル	4-1-231	木村廉吉	3-1-47
神田よし子	1-6-144	京坂喜美子	1-2-84
		行田信子	2-6-155

清瀬いづみ 1-2-103
 清野閑子 4-8-123
 清藤みつ子 3-10-107
 桐畑剛吉 4-6-102

く

日下典子 1-3-76, 1-5-20,
 2-1-108, 2-4-127,
 2-8-77, 2-9-8,
 2-12-117, 3-1-79,
 3-2-58, 3-3-128,
 3-6-84, 3-7-162,
 3-8-87, 3-9-73,
 3-10-110, 3-11-106,
 4-2-92, 4-6-67

草川帆子 4-5-145, 4-7-109,
 4-8-161

鯨井静子 3-1-154
 楠八重子 3-11-23
 葛原けい 4-7-38
 久野連峰 2-8-125

窪川稲子(窪川いね子)〔佐多稲子〕
 1-2-85, 1-3-75,
 1-5-95・130, 2-1-177,
 2-5-120, 3-1-13,
 3-5-63, 3-6-56, 3-8-66,
 3-9-34・72・94, 4-3-18

久保田愛子 4-8-165
 久保田初瀬 3-1-136
 熊谷みどり 1-6-125
 熊代とよ 3-2-49
 倉沢 薫 1-6-127, 2-3-150,
 2-4-170, 2-5-162,
 2-7-208, 2-8-109,
 2-9-136, 2-10-132,

2-11-114・202,
 2-12-158, 3-1-157,
 3-2-104, 3-5-96,
 3-6-110, 3-7-104,
 3-8-113, 3-9-98,
 3-10-103, 4-1-228,
 4-3-157, 4-6-143,
 4-7-112, 4-8-158

くらたゆかり 1-6-86

栗原章子 2-4-81, 2-5-139,
 2-6-131, 2-7-163,
 2-8-92, 2-10-98,
 3-4-94・126

黒岩菊野 4-3-156, 4-5-143,
 4-6-143, 4-7-112

黒沢かく子 1-6-126

黒沢斎子 1-5-160

黒田乙吉 3-6-22

黒田米子 2-2-101, 2-8-149,
 3-8-60, 4-2-89

郡司みや 4-1-231

け

K 2-12-137, 3-1-135

K 子 3-3-79

K・G(KG) 1-3-132, 1-4-131,
 1-5-204

K・I・K 3-6-61, 3-8-96, 3-9-78,
 3-10-48

K・M・R 1-5-114

K・T 1-2-128

圭子 3-1-128

こ

ゴーチエ, テオファイル 1-1-104

コンクリング, グレースハザード
4-5-59

小池みどり→山内みどり

小泉よし江 3-1-137

高良富子〔高良とみ〕 1-5-116

古賀英子 1-3-75, 1-5-148,

2-9-72, 3-2-136

小口みち子 2-3-101

小暮妙子 2-1-146, 2-7-205

小坂たき子 1-1-26, 1-3-78,
1-5-67・96, 2-7-10,

2-8-136, 2-11-155,

3-1-80, 3-4-57・66,

3-7-90, 4-1-152,

4-2-101, 4-7-48

小島 春 2-8-109

小杉 輝 2-1-144

古関金子 1-6-143, 2-1-143,

2-2-85・97

小寺菊子 1-3-84, 2-1-108,

4-1-28

後藤郁子 1-6-81, 2-7-132,

3-1-97, 3-3-114,

3-5-104, 3-6-114,

3-7-58・109, 3-8-118,

4-1-24, 4-7-20

小西みどり 4-2-140

小 林 2-8-134

小林一三 4-3-138

小林きみ子 3-3-116

小林秀恒 3-10-85

小笛瑛智子 1-5-179

小堀まき 3-8-100

小堀まさ 3-5-79

駒井玲子 4-1-148

小松 清 2-9-67

小松ひで子 2-11-110

小松ひでみ 2-3-151, 2-10-135,

3-2-98, 3-3-109,

3-5-94, 3-8-115,

3-9-96, 3-11-158,

4-8-153

小村千代子 3-10-75

小 山 3-1-123

小山いと子 1-2-93, 1-3-76,

1-5-96・108, 2-6-41,

2-12-115, 3-1-81,

3-11-24

小山とみ子 1-6-128

小山実枝 3-10-108

近藤富貴子(近藤ふき子) 1-6-87,

2-11-40

紺野百代 3-3-106, 3-7-106

さ

西条きん子 2-2-115

斉藤英子 1-6-129

斉藤悦朗 2-6-125

斉藤圭子 3-7-86

斉藤 史 3-1-140

斉藤みよ子 4-8-159

三枝正世 3-2-107, 3-3-143

佐賀舟江 4-8-161

坂井和美 2-11-111

酒井和美 3-2-100

坂井友子 4-7-97

酒井信子 4-1-230

酒井弘子	3-5-80	椎木美代子	2-1-140
坂崎 坦	4-2-110	椎野かつ	1-2-100, 2-2-99, 2-7-167, 4-4-157
坂下愛子	2-6-154, 2-7-196	しいま・ちいよ	3-3-119
坂田みよ子	1-6-144	志木晶子	3-3-107・116, 3-5-97, 3-6-111, 3-7-106
佐川きん	3-7-78	式場隆三郎	3-1-50, 4-4-160, 4-5-100
佐川敏子	3-3-50	静田 偲	2-1-143
佐川ふみ	2-7-195	斯波 麗	3-2-107
桜井浜江	3-3-54	芝山みよか	2-3-101
佐々木澄江	4-8-52	渋谷 修	2-11-81
佐々木節子	3-11-107	志摩美子	3-3-105
佐々木ふみ	3-10-108	島田杜美	4-4-199
佐々木富美男	3-4-126, 3-9-86	島村雪子	2-11-114
笹森寿子	2-11-121	清水俊二	2-6-150
佐 藤	3-3-126	清水千代	3-1-136
佐藤京子	4-2-158	下長根待子	3-7-83
佐藤鈴子	3-11-96	城 晴子	4-2-139, 4-4-203
佐藤俊子〔田村俊子〕	4-1-142, 4-7-70	白井尚子	3-1-140
佐藤春子	4-2-155, 4-3-153	白石賀子	2-10-129, 3-1-138
佐藤正子	4-4-205	白石きく	2-7-199, 2-10-140, 3-1-125
佐原浩子	3-6-111	白木幸子	2-10-139
鮫島慶江	4-6-30	白鳥菊雄	4-2-103
沢 智子	2-2-111, 3-8-63	白水千代	2-9-82
沢ゆき子	3-3-83, 3-11-18	白妙三千代	3-11-22
沢木隆子	3-1-100, 4-3-26	新 宿 生	4-5-150
沢田宣子	2-12-123	進藤恵美子	3-1-137
山東須磨	3-1-137		
差山絹枝	2-12-155		

し

シャギニヤン, マリエッタ	2-11-118
ジャンスキー, A・ルウベ	1-4-115, 1-5-152, 1-6-145, 2-1-191, 2-2-49, 2-3-176

す

スウシユキナ, A	2-4-113
ステツキイ	2-6-126
須 賀	2-9-181
須賀瑞枝	1-3-30, 2-1-57, 2-7-42,

- 3-1-83, 3-6-89,
4-1-214, 4-7-57
- 菅原誠子 3-9-98
- 杉 3-7-198, 3-9-154
- 杉とし江 3-8-104
- 杉内いち 3-2-53, 3-8-108
- 杉浦翠(杉浦翠子) 2-8-153, 3-7-73
- 杉田いち 4-2-131
- 杉田千代乃 2-6-143, 3-4-87
- 杉田鶴子 2-11-120
- 杉 村 2-7-194
- 杉村あい 2-12-161
- 杉村河川 3-8-109
- 杉山平助 1-4-71, 2-1-109
- スズエ 4-1-225
- 鈴木愛子 2-10-130
- 鈴木静江 2-12-152, 3-1-120・154,
3-2-105・106,
3-3-115・126, 3-4-125,
3-5-96・101,
3-6-104・110,
3-7-100・104・107,
3-8-114・117,
3-9-96・99,
3-10-103・106・107,
3-11-160・161, 4-1-230,
4-2-156, 4-3-157・158,
4-4-194・205, 4-6-158,
4-7-98・108・112・90
- 鈴木澄江 2-12-159
- 鈴木妙子 1-6-128, 2-2-31,
2-7-209
- 鈴木武子 2-1-143, 2-3-151,
2-4-175, 2-5-159
- 鈴木東民 3-6-15, 4-1-122
- 鈴木とく子 3-1-72, 3-3-125
- 鈴木光子 4-1-231
- 隅川阿紀 4-8-160
- せ
- 瀬川はな子 3-2-106
- 関 鑑子 1-6-122, 2-1-112
- 関みさを 3-11-78, 4-1-126,
4-2-82, 4-3-107
- 関屋敏子 2-3-134, 2-6-141
- 世田三郎 3-8-49
- 節 子 4-6-157
- 芹沢光治良 1-4-71, 2-7-93
- 泉田律子 2-3-61, 2-10-62,
3-1-106, 3-6-91,
3-9-96, 4-2-98
- 船場洋子 2-12-158
- そ
- 相馬黒光 3-10-24
- 外木ゆたか 2-4-103
- た
- ダツチ, バベツト 4-6-88
- 泰平幸子 4-3-153
- 平 林辰 2-10-59
- 高沖陽造 3-7-110
- 高木きよ子 2-10-140
- 高木トミ 4-2-158
- 高桑菊子 3-1-136, 4-6-25
- 高 瀬 3-8-109, 4-5-148
- 高瀬裕孝 3-5-94, 3-8-117, 4-8-165
- 高田せい子 1-4-103, 3-4-96
- 高取春子 1-6-128

鷹野つぎ	1-3-78	武田和重	3-11-23
高橋あやめ	2-4-102・171, 2-6-155, 2-12-158	武田茂雄	1-3-78
高橋英子	4-2-22	武田忠哉	3-3-35
高橋鈴子	1-6-6, 2-2-115	武田松枝	3-10-107・108
高橋たか子	2-4-173, 3-7-64	武田麟太郎	2-4-76, 3-4-76, 3-5-65・67
高橋常子	4-4-205	竹田守貞子	4-7-38
高橋友子	2-2-129, 2-4-86, 2-5-142, 2-6-114	竹中繁子	2-1-98, 2-6-88
高橋豊洋	2-3-104	田代ふで	4-1-230
高橋光子	4-7-95	田代 翰 ^{ふみ}	4-7-99
高橋麗子	4-5-150	田代れい	4-5-143
高浜秀子	3-7-88	竜川麗子	3-10-102・104, 4-1-226
高見 順	4-1-152, 4-3-140	竜二庸子	2-1-142
高見沢直江	2-6-55, 2-12-118	立野信之	4-1-180
高実子せき	4-8-159	館美保子	1-2-82, 3-3-85, 3-11-20
高柳奈美	1-6-90	館山しのぶ	2-1-149
滝口修造	2-11-43	田所すが	3-7-85, 4-8-123
竹内茂代	3-11-94	田中寿美子	1-3-79
竹内次郎	2-11-69	田中たづ	3-8-116, 3-10-104, 4-2-155, 4-7-109
竹内 直	4-4-172	田中つね	1-6-144
竹内てるよ	1-3-81, 1-4-91, 1-5-126, 2-1-186, 2-4-173, 2-11-36, 3-1-102, 3-4-52, 3-7-60, 3-8-118, 3-10-20, 3-11-114, 4-6-28	田中利江	4-7-98
竹内茂登子	3-1-138	田中ふみ	4-4-201
竹内 好	2-2-16	田辺寿美子	4-6-146
武島たま子	1-6-82, 2-1-139・141, 2-2-97, 2-3-101・151, 2-4-177, 2-5-160, 2-6-153, 2-8-111, 2-10-141	谷 葉子	4-7-112
竹田和子	2-4-170	谷口敏子	4-7-39
		田原明子	2-3-150, 2-4-170
		玉城 肇	2-10-8, 3-2-18, 3-5-18, 3-6-40, 3-7-32, 3-8-15, 3-9-20, 3-10-54, 4-4-160, 4-5-100
		田 村	2-10-46
		田村泰次郎	4-1-152, 4-3-141
		丹 映子	2-12-159, 3-3-115, 3-6-112, 3-8-113, 3-9-99

- 丹下富士雄 2-7-199
 丹沢豊子 2-10-129, 3-4-69,
 4-5-79, 4-7-17
 丹塚もりえ 4-3-24
- ち
- 千葉亀雄 1-4-74, 2-1-110,
 2-4-72, 2-7-80
 千葉つな 4-6-130
 中条百合子〔宮本百合子〕
 1-3-77, 1-5-79, 1-6-78,
 2-1-108, 2-3-110,
 4-3-98, 4-4-160,
 4-5-100, 4-7-22
 千代 2-12-158, 3-3-115
 ちよ子 3-2-106
- つ
- 津川文字 2-4-101
 辻修 4-1-208, 4-2-128
 辻正子 4-2-156
 辻村もと子 1-1-2, 1-2-110, 1-5-6,
 2-3-10, 2-7-64,
 3-1-172, 3-7-56,
 3-10-147, 4-1-152
 辻山春子 4-3-28
 津田盈子 3-8-114, 3-9-98
 津田たけ 2-12-159
 土屋滋子 1-5-30・99, 2-7-32
 壺井栄 2-4-10, 2-8-144
 壺田花子 1-2-82
 露木陽子 1-2-83, 1-4-89,
 1-5-124, 3-1-101,
 3-7-63, 4-4-25
- 鶴司直枝 3-6-113
- て
- T 4-7-103
 T 生 4-5-135
 T K O 4-5-144
 T ・ S 1-5-110・113
 鉄木閲子(鉄木えつ子) 2-10-137,
 2-12-154, 3-1-153,
 3-3-105・106
 寺尾文絵 4-6-157
 寺田不二子 3-7-85
 寺元亮子 3-6-112, 3-7-106
 転部清子 3-4-80
- と
- 土井ちよ 1-2-100
 土井倭文字 3-9-96・99
 東郷青児 4-3-140
 塘之木琴 3-5-98, 3-6-104・110,
 3-7-103, 3-8-114・116,
 3-9-98, 3-10-102
 遠山サチ 3-1-126
 遠山葉子 1-2-115, 2-1-123,
 2-2-116, 2-6-98
 十返一〔十返肇〕 2-8-48
 徳田→徳田まち子
 徳田まち子(徳田) 3-6-153,
 3-7-197, 3-8-166,
 3-9-154
 徳永直 1-4-70, 2-1-109,
 2-4-75, 3-2-46,
 4-3-138
 徳久歌子 2-2-115, 2-4-18, 3-2-86

- 戸坂 潤 2-1-110, 2-4-74,
2-7-73, 4-1-114
- 戸田みね 4-1-231
- 利根川ユリ(野辺由利子) 1-4-33,
2-10-150, 4-1-218,
4-5-30
- 富岡佐理以 2-7-206
- 富岡紀子 2-11-30
- 富沢美穂子 2-1-156, 2-2-117,
2-3-141, 2-4-165
- 富田住子 3-11-23
- 富田マキ 4-1-231
- 富田路子 3-3-116
- 富永郁子 3-7-172
- 富本一枝 1-6-131, 2-8-154,
2-9-71, 2-11-144,
2-12-162, 3-1-73,
3-10-37, 3-11-12,
4-4-153
- 豊田三郎 4-1-152
- 鳥居みどり(鳥居緑) 2-7-191,
2-8-151, 4-1-170
- な
- 内藤純子 4-8-155・164
- 永井街子 1-1-86, 1-6-66, 2-2-73,
2-4-154, 3-9-96,
4-5-126
- 永井 光 3-5-94, 3-6-105
- 永井八重(永井八重子) 2-8-110,
2-11-115, 2-12-159,
3-2-104, 3-4-125,
3-5-97, 3-6-111,
3-7-100・103
- 中川八重子 4-4-206, 4-8-165
- 中島幸子 1-5-139
- 中島千栄子 1-5-161
- 中島 久 3-1-156, 3-3-116,
3-5-95・97, 3-6-112,
3-7-104, 3-8-114,
3-9-98, 3-10-102
- 永瀬清子 1-2-107, 2-8-98,
2-9-46, 2-10-76,
2-11-30, 3-3-76,
3-4-50, 3-5-71,
3-7-62・90, 4-2-20・78,
4-6-26
- 長田せい子 1-6-100
- 永田露子 1-5-160, 4-4-159
- 中田とみ子 4-7-98
- 中田豊子 2-11-35
- 中田信子 3-3-82, 4-3-22
- 中根みや(中根ミヤ) 1-3-123,
2-2-100
- 中野重治 2-6-81
- 中野鈴子 2-9-94, 2-12-93,
3-4-51, 3-9-88, 4-2-18
- 中野みつ子 3-1-122
- 中原ゆき子 1-6-26
- 仲町貞子 1-4-27, 1-5-99・105,
2-1-111, 2-6-47,
2-8-139, 2-12-120,
3-1-84
- 中路知子 1-5-161
- 中村歌子 1-2-99
- 中村紅海 2-6-156, 2-7-209,
2-8-109, 2-10-132,
2-12-159
- 中村テル 2-2-105, 3-2-66, 3-8-58
- 中村敏江 2-8-112・113, 2-12-152
- 中村とみ子 4-7-96

中村なつ子	4-5-143	西村愛子	2-10-129, 3-7-83
中村フジ	2-8-106	西村あや子	3-2-105
中村紅子	4-4-194	西村綾子	3-3-103・116
中村正常	4-3-139	丹羽文雄	2-5-114, 2-7-86
中村美津	3-6-104		
中屋かず子	1-6-143		
名取たづ子	3-2-88		
鍋島道子	4-4-105		
成田千代子	3-2-90		
南部たかね	2-3-105		

ぬ

ヌシノフ, イ	2-8-52, 2-9-52
沼田睦子	4-6-134, 4-7-66, 4-8-124

の

に

新居 格	2-6-76, 2-10-14, 3-7-81, 3-10-85, 3-11-120	野上弥生子	1-1-98
新居滋子	3-1-138	野沢三枝子	1-2-102
新居好子	4-1-152, 4-2-94	能代とよ	3-8-56
新島 繁	3-2-28, 3-3-60, 3-4-46・119, 3-5-40, 3-6-49, 3-7-70・196, 3-9-96, 3-10-78, 3-11-86, 4-1-140, 4-2-86, 4-3-142, 4-4-168, 4-5-94, 4-7-90	野瀬あきよ	4-2-159
二木志津子	2-4-170, 2-6-155, 2-7-204, 2-10-132	野田町子	4-1-231
西方はくみ	3-7-86	野地菁子	3-2-102・104
西川とも子(西川智子)	1-2-49, 1-6-63	野辺由利子→利根川ユリ	
錦戸磨瑣子	2-7-207, 2-8-113, 2-10-142	野村郁子	2-8-109, 2-10-132
西崎三枝	3-4-124	野村千代→樺山千代	
西沢春子	4-5-136		
西田やゑ子	1-6-125		

は

ハイネ	3-4-60
バルザック	1-3-106
萩倉ちさゑ	3-1-138
橋本公子	3-9-91
筈見恒夫	4-7-63
長谷川時雨	1-4-74, 2-1-134, 3-5-48, 3-6-74, 4-5-21
長谷川如是閑	3-1-8
初井しづ枝	3-7-83
服部清子	4-3-159
花井八重	2-7-209
英 美子	1-3-68, 1-6-115,

2-1-113, 2-2-95,
 2-4-146, 3-1-98,
 3-9-60, 4-1-22,
 4-5-147; 4-7-18・111,
 4-8-163

羽田野繁子 3-1-138
 波乃宏子 1-3-72, 1-5-145
 馬場幸子 2-10-62
 馬場秀夫 3-6-30
 浜井ちよ子 4-2-159
 浜田楨尾 2-6-113
 浜野 弘 4-1-204
 林 3-2-163
 林 房雄 2-12-82
 林丕沙子 4-8-51
 林芙美子 2-1-107, 3-9-34, 4-3-125
 林マサミ 3-1-139
 早見君子 4-3-148
 原 2-10-46
 原 潤子 2-4-140, 2-6-156
 原 泉子 3-4-98
 原 信子 1-3-83, 2-3-124
 原 百代 4-1-130
 原よしみ 1-5-103

ひ

ビョルンソン 3-10-96
 氷川 邦 2-7-209, 2-8-110, 2-9-136
 比企野英子 4-8-122
 久板栄二郎 2-7-78
 久林富良 2-8-52, 2-9-52
 飛弾高子 3-11-58, 4-6-119
 日高栄子 3-8-103
 日高ゆりゑ(日高ゆりえ)
 3-4-102, 3-9-69

一ツ橋美江 3-7-84
 日 野 3-1-125
 日野たつ 2-3-71
 日比野友子 3-1-136
 平尾 真 2-6-124
 平田澄子 4-6-131
 平林英子 1-1-102, 1-2-57,
 1-3-29, 1-5-87・95・107,
 1-6-117, 2-1-107,
 2-3-88, 2-9-145,
 2-11-127, 2-12-120,
 3-1-78, 3-3-89, 3-7-90,
 3-11-102, 4-1-152
 平林たい子 1-2-113, 1-3-74,
 1-5-95・134, 1-6-139,
 2-1-183, 2-3-122,
 2-6-145, 2-8-68,
 3-1-13・41, 3-5-93,
 3-7-102, 3-10-37,
 4-2-108, 4-14-160,
 4-5-100, 4-6-32・110
 平山千加子 3-2-107
 広川 恒 2-10-23
 広島徳四郎 2-2-6, 2-3-94
 広島与志 3-1-116
 広瀬章子 4-6-131
 氷 蛍 2-2-16

ふ

フイツシヤ, ルイズ 3-9-57
 深尾須磨子 2-1-10, 2-3-19, 2-6-92,
 3-1-96, 3-3-113,
 3-7-108, 3-8-118,
 3-9-34・52,
 3-10-37・106, 3-11-160,

細川ちか子 2-1-112, 2-3-129
細田民樹 2-1-107, 2-5-109, 3-10-74
保里佳子 4-4-156
堀八重子 2-2-99
本多順子 3-11-22, 4-6-132

ま

マシアス, ブレンチ 4-6-89
前川政子 2-12-153, 3-1-156,
3-3-110
前田美代子 3-7-107
真気→真気信子
槇直美 2-10-133・136,
2-11-110, 2-12-158,
3-3-113
真気信子(真気) 2-11-170,
2-12-166, 3-1-13・205,
3-2-164, 3-3-159,
3-4-126・68, 3-5-152,
3-6-152, 3-7-197,
3-8-166, 3-9-34・153,
3-11-163, 4-1-232,
4-2-160, 4-3-160
槇真美 3-8-113
牧美沙子 2-5-162, 2-11-115
牧野芳子 3-7-84
正木とし 2-3-104
柗木不二夫 2-6-90, 3-2-42・54
真杉静枝 1-1-100, 1-4-51,
1-5-97・172, 2-2-114,
2-3-91, 2-7-137,
3-8-156, 4-1-100・152,
4-5-72
増田 2-10-46
増田玉子 4-6-155

松井 2-6-174
松井水枝 3-1-138
松浦颯子 4-7-39
松田解子 1-1-49, 1-2-109,
1-3-77, 1-5-121・136,
1-6-105・111, 2-1-11,
2-2-144, 2-3-126・154,
2-5-163, 2-6-106・159,
2-7-212, 2-8-83・158,
2-9-161, 2-10-116,
2-11-129, 2-12-124,
3-1-13・72, 3-1-130,
3-5-60・64・93・103,
3-7-54, 3-11-143,
4-5-80, 4-7-70
松原しま子 1-2-102
松村珊子 3-2-65
松村とし子 4-7-95
松本員枝 4-7-91
松本かづ子 2-9-134, 2-10-134,
2-11-111, 3-7-92,
3-10-108
松本きみ子(松本喜美子) 1-3-81,
1-5-99, 2-2-86,
2-12-30, 3-4-53,
3-10-140, 4-2-47,
4-8-26
松本きみ子 4-7-97
松本つね子 3-10-108
町田志津子 2-9-134
マヤ・片岡 4-2-136
丸岡秀子 1-6-105, 2-4-123,
2-9-71, 2-10-36,
3-1-13, 3-2-8, 3-6-92,
3-10-37, 4-3-134,
4-7-54・70

み

三浦富子 4-7-104
 三浦美佐緒 3-10-103, 3-11-159
 三木文子 4-1-226
 三岸節子 3-3-55, 3-9-62, 4-3-114
 御木本隆三 3-4-57
 三雲秋子 4-2-154
 水川せい子 2-11-115
 水木竜子 3-1-156
 水野明子 1-6-126
 水野清子 4-4-206
 水野千代子 3-1-121
 水原俊子 4-5-145
 水町京子 3-2-45, 4-1-27
 水町葉子 1-6-118, 2-1-109,
 2-4-132, 2-10-68,
 3-4-89, 4-2-137,
 4-4-160, 4-5-100
 三田年子 4-4-202, 4-5-149
 三田友子 4-6-153・157
 三田洋子 4-5-138
 三井広子 3-8-119, 3-10-130,
 4-7-77
 三井松子 3-2-101
 光 成 2-9-181, 2-10-182,
 2-11-170
 光成愿子 2-4-101
 光成秀子 2-4-65, 2-6-101,
 2-7-152, 2-8-64,
 2-9-148, 2-11-17,
 2-12-66, 3-1-132,
 3-2-40, 3-6-82, 3-7-91
 三苫京子 3-1-136
 港さかゑ 4-5-118

港 路子 4-6-148
 南 寛一 2-10-59
 南きた子 3-6-102
 峯 弘子 2-7-98, 2-8-114,
 2-9-114, 2-10-100,
 2-11-83, 2-12-96,
 3-1-142, 3-2-70,
 4-2-62
 峰岸春江 3-3-126
 峰村リツ子 3-3-46, 3-9-67
 美濃一重 2-9-135
 箕浦多一 3-1-43
 宮川曼魚 2-6-84
 三宅五衣 4-8-123
 宮 崎 2-10-46
 宮沢ひさの 3-10-86
 宮下しげ 3-7-101, 3-8-109・113,
 3-9-96
 宮原晃一郎 2-9-64
 宮本三枝 3-4-117
 三好十郎 2-10-83, 3-6-70, 4-3-104
 三好ハナ子 3-8-117
 三好桃恵 4-5-137

む

村岡花子 3-10-37
 村上克子 2-2-98
 村上小牧 1-6-84, 2-1-139,
 2-3-149, 2-10-133
 村上文代 4-8-164
 村 田 1-6-157, 2-1-215
 村田修子 1-5-166, 2-1-214,
 2-12-134, 3-3-118・119,
 3-4-126, 3-7-102,
 4-3-64, 4-8-83

吉田	4-7-93	ロレンス, D・H	4-1-130
吉田桂子	4-1-231		
吉田澄子	1-6-143	わ	
吉田たか子	2-7-185, 2-10-86, 3-10-74	Y・M	3-2-95
吉田とし子	4-1-230	若杉香子	1-4-90
吉田寿子	4-3-156, 4-5-142・149, 4-6-142, 4-7-113, 4-8-159	若杉鳥子	1-2-105, 1-3-43
吉田信子	4-7-91	若林つや子(若林つや)	1-4-6, 1-5-100, 2-4-140, 3-7-180, 4-1-222
吉田春子	1-6-143	若山喜志子	3-2-27, 3-11-21
吉田秀子	4-8-156	若山喜代子	3-3-116
吉田政江	4-4-205	和木清三郎	2-1-111
吉田松江	4-1-231	鷺見光子	2-1-142, 2-3-150, 2-5-161
吉竹綾子	2-7-203, 2-10-136	渡辺朝	1-5-51, 2-8-10
吉野秋子	4-1-230, 4-5-149	渡辺滋	2-3-105
芳野淑子	2-11-115, 3-2-104・105	渡辺千代	3-11-161, 4-5-150
吉水	2-10-46		
吉村文子	3-5-77		
吉屋信子	4-4-160, 4-5-100		
吉行あぐり	2-6-123		
四家文子	2-6-142, 3-3-79		
米倉久子	3-1-137		

り

李花	2-12-158
李劍鳴	2-1-100
劉蒙暉	4-8-120

ろ

ロウエル, エミイ	4-5-60
ロシー上田	2-8-134
ロマノフ, P	4-4-182, 4-5-65, 4-6-90, 4-8-68

挿絵・カット

甲斐仁代	3-11-11
加藤武子	3-11
岸 丈夫	3-11, 4-1, 4-2, 4-3, 4-4
駒林雅子	4-2-13
志賀はるを	3-11, 4-1, 4-2, 4-3, 4-4, 4-5
成瀬田鶴子	4-1-17, 4-2, 4-3, 4-4, 4-5
東沢ヨシエ	3-11, 4-1, 4-2
馬淵美意子	4-3-17
三岸節子	3-10, 3-11
村田勝四郎	4-5, 4-7
森井輝雄	4-7
矢崎武子	4-8
吉村進司	3-11, 4-1, 4-2, 4-3, 4-4, 4-5
米倉寿仁	4-2, 4-3, 4-4

表紙装幀

小原栄治	4-1
駒林雅子	4-7, 4-8
夏川八郎	3-7, 3-8, 3-9
原 信子	1-2, 1-3, 1-4
村山知義	1-5, 3-2, 3-3, 3-4, 3-5, 3-6
森井輝雄	4-4, 4-5, 4-6
米倉寿仁	3-10, 3-11, 4-1, 4-2, 4-3